取扱説明書

VHF/UHF DUO BAND FM TRANSCEIVER

IC-T70
IC-S70

この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。
また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。
この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

IC-T70はテンキータイプ、IC-S70はシンプルタイプのデュオバンド切り替え型・簡単操作のFMハンドヘルドトランシーバーです。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分に発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の概要について

◎乾電池、充電式電池、外部電源と3種類の運用方法があります。
◎BTL回路※と大型スピーカー搭載により、屋外運用に最適な大音量で聞き取りやすくなっています。
◎クローニング機能により、本製品の設定やメモリーの内容を本製品と同じ無線機に書き込みできます。(☞P72)

※ BTL回路とは、通常は1つのアンプでスピーカーを鳴らすところを、2つのアンプでスピーカーの各端子に正相/逆相の入力をかけることにより、高出力を得る回路です。

使用後はリサイクルへ

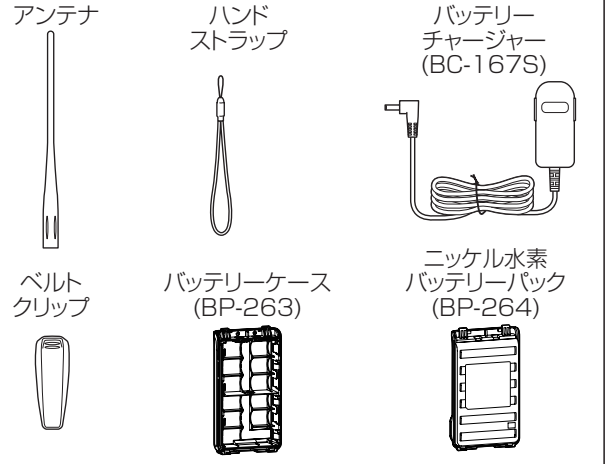
Ni-MH

この製品は充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

取扱説明書の内容について

本書に記載の操作図は、IC-T70で説明しています。
IC-S70は、テンキー以外の操作キーやツマミの位置はすべてIC-T70と同じです。IC-S70だけの操作については、IC-T70と分けて説明しています。

付属品について



□ 取扱説明書(本書)<保証書付き>　□ 愛用者カード
□ バーコードシール

ユーザー登録について

ユーザー登録はバージョンアップ・サービスなどをご提供するときに必要になります。
付属の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投函してください。
また、弊社ホームページから登録される場合は、インターネットから、http://www.icom.co.jp/ にアクセスいただき、サポート情報からユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

個人情報の取り扱いについて

弊社が個人情報を利用する場合、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内で利用し、範囲を超えての利用はいたしません。
弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ http://www.icom.co.jp をご覧ください。

登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビープは、アイコム株式会社の登録商標です。
アイコム株式会社の著作物の全部、または一部を無断記載、複写およびいかなる方法による複製を禁止します。

JIS保護等級4(防まつ形)相当の防水性能

この製品は、JIS保護等級4(防まつ形)相当の防水性能を確保していますので、少々の雨でも使用できます。
ただし、絶対に水につけないでください。
水につけると故障の原因になります。

自動車運転時のご注意

◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
◎安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。
◎本製品をハイブリッドカーでご使用になる場合は、搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

はじめに

電波を発射する前に

アマチュア局は、自局の発射する電波が、テレビやラジオの受信に障害を与えたり、障害を受けているとの連絡を受けた場合は、ただちに電波の発射を中止し、障害の有無や程度を確認してください。

> **参考　無線局運用規則　第8章　アマチュア局の運用**
> **第258条　アマチュア局は、自局の発射する電波が他の無線局の運用又は放送の受信に支障を与え、若しくは与えるおそれがあるときは、すみやかに当該周波数による電波の発射を中止しなければならない。　以下省略**

障害が自局の電波によるものと確認された場合、無線機やアンテナ系を点検し、障害に応じて弊社サービス受付窓口やお買い上げの販売店などに相談し、適切な処置をしてください。
受信側に原因がある場合、障害対策は単に技術的な問題に止まらず、ご近所付き合いなどで、むずかしい場合もあります。
日本アマチュア無線機器工業会(JAIA)、および(社)日本アマチュア無線連盟(JARL)では、電波障害の対策と防止についての相談窓口を開設しておりますので、対策にお困りの場合はご相談ください。

日本アマチュア無線機器工業会 (JAIA)
〒170-0002　東京都豊島区巣鴨1-10-5　第2川端ビル
TEL 03-3944-8611

(社)日本アマチュア無線連盟 (JARL)
〒170-8073　東京都豊島区巣鴨1-14-5
TEL 03-5395-3111

電波法についてのご注意

電波法第59条で**「特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない」**と通信の秘密について定められています。
※無線機の取り扱いには十分配慮して、電波法を守ってください。
※使用できるのは、日本国内に限られています。

各バンドのおもな特長と楽しみかた

本製品は、VHF(144MHz帯)とUHF(430MHz帯)のそれぞれによる電波伝搬の特長を生かした交信が楽しめます。
VHF帯/UHF帯の電波は直進性が高く、建物や山岳などによる減衰や反射で電波の強度が変化し、通信状態に影響を与えます。通信状態への影響はバンドによっても異なり、ビルの中や市街地などでは影響を受けやすく、通信距離が大きく変化する場合があるので、相手局に対して見通しのよい場所で運用することをおすすめします。

■ 144MHz帯の特長

144MHz帯は、VHF帯のメインストリートと言われています。
全国どこへ移動しても交信相手には困りません。
また、仲間との通話や連絡用としても役立ちます。

■ 430MHz帯の特長

レピータを使用すれば、電波が直接届かない局とも交信できるのが430MHzです。
ハンディー機でも比較的遠方のレピータにアクセスできますので、交信範囲が大きく広がります。

取り扱い上のご注意

◎アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。

◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露することがあります。

結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

◎雨の中や、水滴が付着したまま、またはぬれた手でバッテリーパックやバッテリーケースやアンテナを付けたり、はずしたりしないでください。

◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、ときどきお手入れをしてください。

◎磁気カードを本製品に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。

◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、6ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。

◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

はじめに ——— i
取扱説明書の内容について …… i
本製品の概要について …… i
付属品について …… i
ユーザー登録について …… ii
個人情報の取り扱いについて …… ii
登録商標/著作権について …… ii
JIS保護等級4(防まつ形)相当の防水性能 …… ii
自動車運転時のご注意 …… ii
電波を発射する前に …… iii
電波法についてのご注意 …… iii
各バンドのおもな特長と楽しみかた …… iii
取り扱い上のご注意 …… iv

安全上のご注意(必ずお読みください) ——— vii
■ 本製品について …… vii
■ バッテリーケースについて(BP-263) …… x
■ ニッケル水素バッテリーパックについて(BP-264) xi
■ 充電器について(BC-167S/BC-191) …… xiii

もくじ

1 ご使用の前に ―― 1
- ■ ハンドストラップの取り付けかた …… 1
- ■ ベルトクリップの取り付けかた …… 1
- ■ バッテリーパック/バッテリーケースの取り付けかた 2
- ■ アンテナの取り付けかた …… 2

2 電源について ―― 3
- ■ バッテリーパックについて …… 3
- ■ 電池の入れかた …… 3
- ■ 簡易充電のしかた …… 5
- ■ 急速充電のしかた …… 7
- ■ 外部電源の接続 …… 8

3 各部の名称と機能 ―― 9
- ■ 上面/側面/前面パネル …… 9
- ■ ディスプレイ …… 11

4 基本操作のしかた ―― 13
- ■ 電源の“ON/OFF”と音量調整のしかた …… 13
- ■ 運用モード[VFO/メモリー/コールチャンネル]の切り替えかた …… 14
- ■ スケルチレベルを調整する …… 15
- ■ モニターのしかた …… 15
- ■ 周波数を設定するには …… 16
- ■ チューニングステップ …… 17
- ■ 受信の基本操作 …… 17
- ■ 送信のしかた …… 18
- ■ ロック機能の使いかた …… 20

5 レピータ(430MHz帯のみ)/デュプレックス運用について ―― 21
- ■ オートレピータ機能での交信 …… 21
- ■ デュプレックス運用について …… 23
- ■ 送信時のオフバンド表示について …… 24

6 メモリーの使いかた ―― 25
- ■ メモリーモードについて …… 25
- ■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容 …… 26
- ■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた …… 26
- ■ コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた…… 27
- ■ メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた …… 28
- ■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する …… 30
- ■ メモリー/バンク/スキャンネームの使いかた … 33
- ■ メモリークリア(消去)のしかた …… 36

7 スキャンのしかた ―― 37
- ■ スキャンについて …… 37
- ■ VFOモードのスキャン …… 39
- ■ メモリーモードのスキャン …… 41
- ■ スキップチャンネルの指定と解除のしかた …… 43

もくじ

8 プライオリティースキャンのしかた ——— 44
- ■ プライオリティースキャンについて …… 44
- ■ VFO周波数とM-CH …… 45
- ■ VFOスキャンとM-CH …… 46
- ■ VFO周波数とメモリースキャン …… 47
- ■ VFOスキャンとメモリースキャン …… 48

9 SETモード・イニシャルSETモード ——— 49
- ■ SETモードの選択方法 …… 49
- ■ SETモードの項目一覧表 …… 49
- ■ イニシャルSETモードの選択方法 …… 58
- ■ イニシャルSETモードの項目一覧表 …… 59

10 各種機能の使いかた ——— 65
- ■ DTMFメモリー機能の使いかた …… 65
- ■ トーンスケルチ/DTCSコードスケルチ/ポケットビープ機能の使いかた …… 69
- ■ CTCSSトーン/DTCSコードスキャンのしかた 71
- ■ クローニングについて …… 72

11 別売品について ——— 73
- ■ 別売品についてのご注意 …… 73
- ■ 別売品一覧 …… 73
- ■ VOX機能の使いかた …… 74
- ■ シンプルマイク機能の使いかた …… 75

12 ご参考に ——— 76
- ■ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には …… 76
- ■ 故障かな？と思ったら …… 77
- ■ アフターサービスについて …… 78

13 定　格 ——— 79
- ■ 一般仕様 …… 79
- ■ 送信部 …… 79
- ■ 受信部 …… 80
- ■ 急速充電器(BC-191：別売品) …… 80

14 免許申請について ——— 81
- ■ 無線局事項書の書きかた …… 81
- ■ 工事設計書の書きかた …… 81
- ■ バンドの使用区別(バンドプラン)について …… 83

さくいん ——— 巻末

安全上のご注意(必ずお読みください)

安全にご使用いただくために、必ずお読みください。

▶使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
▶次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠ 危険	この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
⚠ 警告	この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠ 注意	この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】
お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■ 本製品について

⚠ 危険

- **引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。**
  火災、爆発の原因になります。
- **液晶パネルが破損した場合は、液もれした液に触れないでください。**
  液もれした液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触れたりしないでください。
  失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。

⚠ 警告

●民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。

●電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

●線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

●指定以外の別売品を使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

●アンテナを接続しないで送信したり、送信しながらアンテナを接続したりしないでください。
感電、故障の原因になります。

●アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。

●大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

●この製品は完全調整していますので、分解、改造しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

●煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

●赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。

安全上のご注意

■ 本製品について（つづき）

⚠ 注意

●アンテナを持って、本製品を持ち運ばないでください。
故障や破損の原因になることがあります。

●直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には放置しないでください。
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

●テレビやラジオの近くで送信しないでください。
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

●マイクロホンを接続するときは、指定以外のマイクロホンを使用しないでください。
故障の原因になることがあります。

●製品の上に乗ったり、ものを置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。

●製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。

●清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

●本製品を湿気やホコリの多い場所に置かないでください。
故障の原因になることがあります。

●本製品をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり倒れたりして、けがの原因になることがあります。

●磁気カードなどは本製品に近づけないでください。
磁気カードなどの内容が消去される場合があります。

●ハンドストラップやベルトクリップは確実に取り付けてください。
落下によるけが、本製品の破損の原因になることがあります。

●長期間ご使用にならないときは、本製品の電源を切り、電池を取りはずしてください。
本製品を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。

●連続送信するときは、放熱にご注意ください。
連続送信すると、本製品を保護するために放熱し、温度が上昇しますので、やけどの原因になることがあります。

■ バッテリーケースについて(BP-263)

⚠ 危険

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- BP-263は、アルカリ電池専用のバッテリーケースです。
  アルカリ電池以外の電池を入れないでください。
- ハンダ付けしないでください。
- バッテリーケースの電池端子間をショートさせないでください。
- 被覆に傷が入ったり、はがれたりした電池を使用しないでください。
  電池をショートさせるおそれがあります。
- ネックレスなどの金属類とバッテリーケースをいっしょに持ち運んだり、放置しないでください。
- 火やストーブのそば、炎天下など、高温になる場所での使用、または放置をしないでください。
- 長時間使用しない場合は、液もれのおそれがありますので、アルカリ電池を取りはずしてください。
  また、電池のアルカリ液が目に入ったり、皮膚や衣服に付着したりしたときは、こすったり、触れたりしないでください。
  失明、皮膚障害のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。

⚠ 警告

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、けがの原因になります。

- テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
  アルカリ電池から、ガスが発生することがあります。
- 水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 分解や改造をしないでください。
- 電池を交換するときは、すべての電池を同時に交換してください。
  また、種類の異なる電池を混ぜて使用したり、新しい電池と古い電池を混ぜて使用したりしないでください。

安全上のご注意

■ニッケル水素バッテリーパックについて (BP-264)

⚠ 危険

◎バッテリーパックは、火の中に投入したり、加熱したりしないでください。
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類とバッテリーパックをいっしょに持ち運んだり、放置したりしないでください。
- バッテリーパックは、水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器で使用したり、それ以外の用途には使用したりしないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
  失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

◎テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

⚠ 警告

◎バッテリーパックの使用中や充電中、または保管中などに、いつもより発熱しているなど異常と感じられたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
そのまま使用すると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎バッテリーパックを電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎指定の充電時間以上、充電しないでください。
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着すると、故障の原因になります。

⚠ 警告

◎赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
発熱、感電、けが、故障の原因になります。

⚠ 注意

◎コンクリートなどのかたい床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損していることがあり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所で充電しないでください。
保護装置が動作して、充電できなくなったり、保護装置を破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、やけどの原因になります。

◎火やストーブのそば、車内や炎天下など、60℃を超える環境で放置、または使用しないでください。
バッテリーパックの性能や寿命が低下したり、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎0℃～45℃ *以外の環境では簡易充電しないでください。
周囲や本体の温度が0℃～45℃ *以外の環境では、充電されないことがあります。
*急速充電の場合は10℃～40℃になります。

◎下記の事項を守らないと、バッテリーパックの性能や寿命を低下させる原因になることがあります。

- **バッテリーパックを完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。**
  長期間バッテリーパックを保管する場合は、バッテリーパックを満充電にしてから、無線機から取りはずして保管してください。
- **−5℃～+60℃**以外の環境で使用しないでください。

◎本製品を長期間使用しない場合はバッテリーパックを取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。
電池の発熱、サビの原因になることがあります。

- **・1ヵ月以内　：−20～+45℃**
- **・6ヵ月以内　：−20～+35℃**
- **・約1年　：−20～+25℃ ***

*6ヵ月ごとに充電することをおすすめします。

安全上のご注意

■ 充電器について(BC-167S/BC-191)

⚠ 危険

BC-167S(付属品)/BC-191(別売品)はBP-264(付属品)専用の充電器です。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。

- BC-191に付属のACアダプター、別売品のCP-23L、OPC-515L以外のケーブルを使用しないでください。
- BP-264以外のバッテリーパックは、充電しないでください。
- BC-167S/BC-191以外の充電器は、使用しないでください。
- 分解や改造をしないでください。
  また、ご自分で修理しないでください。

⚠ 警告

◎下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
  また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対触れないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。
- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
  すぐにACコンセントからACアダプターを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠ 注意

◎下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。

- バッテリーパックを満充電したあとも連続で充電したり、短時間使用後の再充電を繰り返したりしないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプター、またはDC(12V～16V)ジャックから弊社指定のケーブル(CP-23L/OPC-515L)を抜いてください。
- 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。

◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。

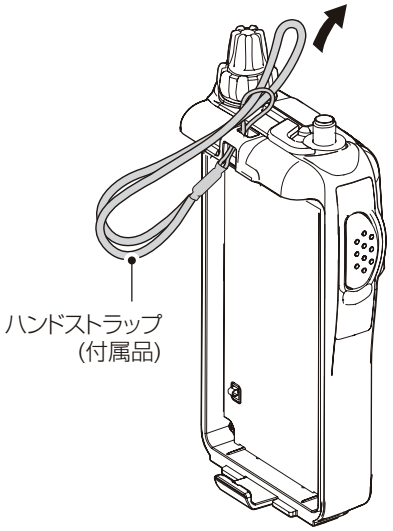
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。

ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

1 ご使用の前に

■ ハンドストラップの取り付けかた

運用時や持ち歩くときに、ハンドストラップに手首をとおしておくと、落とさないので安全です。



⚠警告

アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。

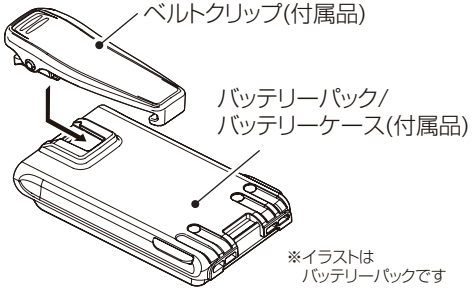
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。

■ ベルトクリップの取り付けかた

取り付けるとき

①バッテリーパック、またはバッテリーケース(アルカリ電池用)を無線機からはずします。

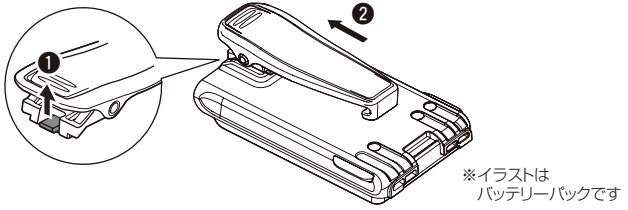
②ベルトクリップを、**「カチッ」**と音がするまで矢印の方向にスライドさせます。



取りはずすとき

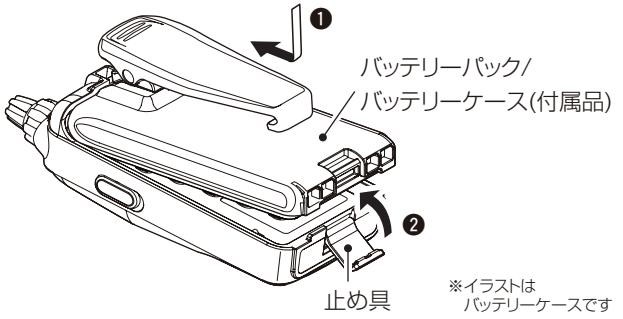
①バッテリーパック、またはバッテリーケースを無線機からはずします。

②レバーを[❶]の方向に押し上げ、[❷]の方向にスライドさせます。



■バッテリーパック/バッテリーケースの取り付けかた

バッテリーパック/バッテリーケース(アルカリ電池用)は、図の手順(❶→❷)にしたがって取り付けます。
(電池の入れかた：☞P3)
※逆の手順(❷→❶)で取りはずしできます。
※本製品の電源を切ってから、取りはずしてください。
※止め具は、容易にはずれない構造になっています。指や爪をいためるおそれがありますので、コインなどを使って取りはずしてください。

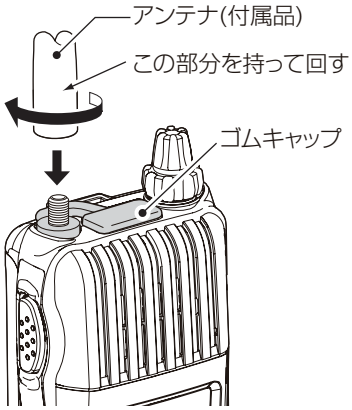


⚠注意

しばらく本製品を使用しないときは、バッテリーパック/バッテリーケースを本製品から必ず取りはずしてください。
本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れていますので、電池が消耗する原因になることがあります。

■アンテナの取り付けかた

アンテナコネクターは、SMA型を使用しています。
取り付けるときは、アンテナ(付属品)の根元を持って時計回りに手で締まる程度まで回します。
取りはずすときは、アンテナの根元を持って反時計回りに回します。
※ゴムキャップの上から取り付けてください。
※別売品のAD-92SMAを使用すれば、BNC接栓の外部アンテナも接続できます。(☞P73)



2 電源について

■ バッテリーパックについて

◇ バッテリーパックの運用時間

送信5秒/受信5秒/待ち受け90秒(パワーセーブ:Auto)の時間比で繰り返し運用した場合の目安です。

	BP-264
VHF帯	約11時間30分
UHF帯	約10時間00分

◇ バッテリーパックの残量表示について

バッテリーパックを装着時、残量に応じて変化します。

※外部電源(CP-19、CP-12L、OPC-254L*)を接続しているときは、残量を表示しません。*10V以下は残量を表示

表示	バッテリーパックの状態
	十分に容量があります。
	容量が半分以下です。
(点滅)	充電する時期です。(短時間の運用は可能)

【お願い】

使用済みのバッテリーパックは、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の端子にテープなどを貼り絶縁してから、充電式電池のリサイクル協力店にご持参ください。

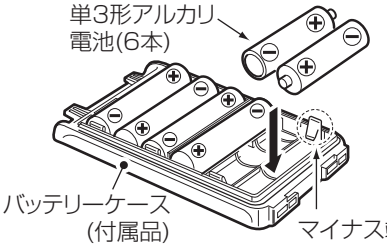
【ご参考】

接触不良を防ぐために、バッテリーパックの電源端子を乾いた布などで定期的に清掃されることをおすすめします。

■ 電池の入れかた

電池の極性⊕(プラス)、⊖(マイナス)に注意して、単3形アルカリ電池(6本)をバッテリーケースに入れます。

※電池を入れるときは、バッテリーケースのマイナス端子が飛び出ているため、指や爪をいためないよう、ご注意ください。



⚠危険

被覆に傷が入ったり、はがれたりした電 池 を使用しないでください。
電 池 をショートさせるおそれがあります。

◇ バッテリーケースの運用時間

送信5秒/受信5秒/待ち受け90秒(パワーセーブ:Auto)の時間比で繰り返し運用した場合の目安です。

	BP-263
VHF帯	約14時間30分
UHF帯	約12時間00分

使用条件やアルカリ電池の種類(製造元など)により、運用時間が異なることがありますので、ご注意ください。

※アルカリ電池の特性により、低温では運用時間が短くなります。

◇ バッテリーケースを正しくご使用いただくために

⚠危険

単3形アルカリ電池専用です。
マンガン電池や単3形の充電式電池を入れて使用しないでください。

◎電池の極性(⊕と⊖)に、ご注意ください。
◎バッテリーケースの電圧が、本製品の動作範囲以下になると、電源が切れます。
◎バッテリーケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがあります。
各端子は、乾いた布などで定期的にお手入れしてください。
◎バッテリーケースを使用しないときは、電池を取りはずして保管してください。
◎電池に記載されている注意事項も、併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

◇ 電池の交換時期について

電池の容量が少なくなると、表示全体が一瞬消えたり、残量表示が点滅したりします。

表示	電池の状態
	十分に容量があります。
(点滅)	交換する時期です。6本とも新しい電池に交換してください。

【ご参考に】
気温が低下するほど、電池の容量は著しく減少します。
使用できる温度の下限は、一般的に−10℃とされています。
寒冷地でご使用になる場合は、バッテリーケースを十分に保温しながらご使用ください。

2 電源について

■ 簡易充電のしかた

ニッケル水素バッテリーパック(BP-264)は、出荷時の状態では十分な充電がされていません。
ご使用の前に、必ず充電してください。

※ 充電中は、**「CHARGE」**が表示され、▮▮(電池残量表示)が「▯▯(消灯)」→「▮▯」→「▮▮」と変化します。
また、充電が完了すると、**「CHARGE」**と▮▮が消灯します。

※ 充電するときは、必ず本製品の電源を切ってください。

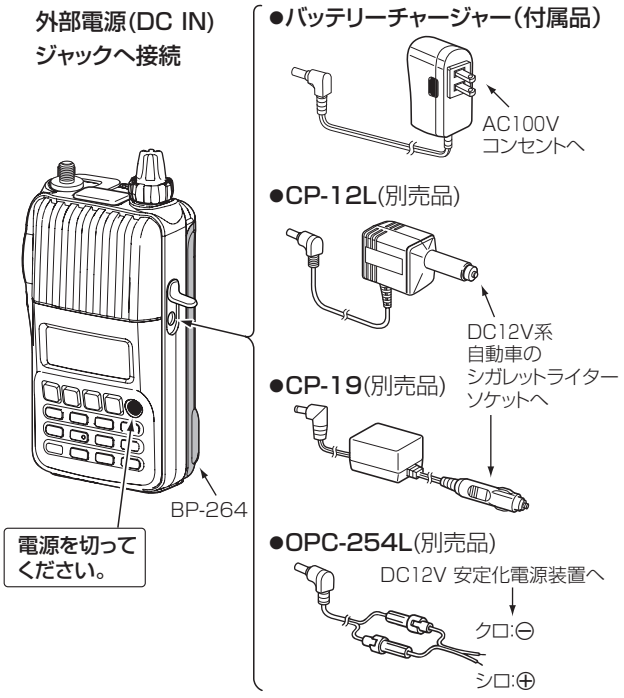
◇ 簡易充電を正しくご使用いただくために

◎付属のバッテリーチャージャーを使って簡易充電するときは、本製品の電源を切ってください。
また、ご家庭のコンセントの電圧(AC100V)が極端に低くなったときは、正常に充電できないことがあります。

◎別売品のCP-19、CP-12L、OPC-254Lを使用すると、本製品を運用しながら簡易充電できます。(送信中を除く)
※外部電源との接続については8ページをご覧ください。

⚠注意
ニッケル水素バッテリーパック(BP-264)を完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、バッテリーパックが満充電になってから、無線機から取りはずして保管してください。
保管期間と温度範囲については、xiiページをご覧ください。

〈充電時間は、約8時間です。〉



⚠危険
弊社指定以外の充電器で簡易充電しないでください。

◇ 簡易充電についてのご注意

◎本製品の運用や簡易充電をしないときは、外部電源を本製品から取りはずしてください。

◎バッテリーパックを装着した状態で、外部電源ジャック(DC IN)から充電するときは、供給する電圧が**DC10V～16V**の範囲内であることを確認してから接続してください。
外部電源ジャック(DC IN)に接続した電圧が低いときは、充電できません。

◎充電が完了した(約8時間充電した)直後に、電源プラグの抜き差しを繰り返すなどして再充電をしないでください。

◎バッテリーパックは消耗品ですので、充電と放電を繰り返す回数が多くなってくると運用時間が短くなってきます。
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパックをご購入ください。

◎充電しても、▮(電池残量表示)を3段階で示す充電中の表示が、約1分後に消えるときは、バッテリーパックに異常な場合がありますので、取りはずしてお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

◎バッテリーパックが満充電になったあと、引きつづき充電したり、短時間運用後に再充電したりすることは、みかけ上電池の容量が低下した状態となるだけでなく、過充電になって電池の破裂、発熱、液もれの原因になります。このようなときは、完全に放電(通常の運用)したあと、再充電してください。

◎バッテリーケース(BP-263)に市販の充電式電池を入れても充電できません。

◎充電中は電池が発熱し、充電中の環境温度が40℃を超える場合などは、電池に温度負担がかかることがあります。
このような場合は、電池を保護するため、温度プロテクトが動作し、電池への温度負担を軽減します。

◎温度プロテクトが動作すると、電池の温度がある程度下がるまで充電を中断します。この間、すべての表示が一時的に消えますが、故障ではありません。
電池を効率よく充電するために、高温になりやすい場所での充電はなるべく避けていただくようお願いします。
また、常温環境下でも満充電近くになると、この温度プロテクトが作動することがありますが、この場合はすでに十分に充電された状態にありますので、すぐにお使いいただけます。

■急速充電のしかた

◇BC-191（卓上急速充電器）の充電のしかた

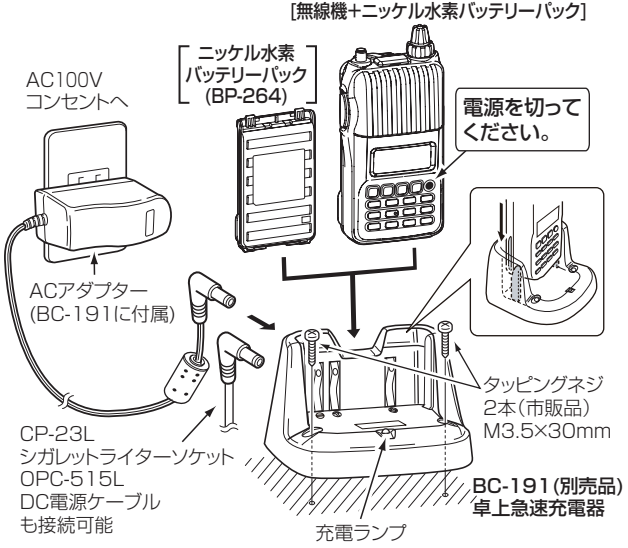
BP-264バッテリーパック単体、または本製品に装着した状態でニッケル水素バッテリーパックの急速充電ができます。

※充電ランプは、橙・緑・赤の3色で充電状態を表示します。
充電中：橙色点灯　充電完了：緑色点灯　エラー：赤色点滅

※BC-191（卓上急速充電器）は、DC（12V～16V）ジャックを装備しています。

※右記の注意事項も併せてお読みください。

〈充電時間は、約2時間です。〉



◇急速充電についてのご注意

◎**バッテリーパックを本製品に装着して充電するときは（左図参照）、必ず無線機の電源を切ってください。**
ご家庭のコンセントの電圧(AC100V)が極端に低くなったときは、正常に充電できないことがあります。

◎外部電源を接続したまま、急速充電しないでください。
充電器の充電保護回路が動作して、充電ランプが赤色に点滅することがあります。
充電ランプが赤色に点滅したときは、一度充電器からACアダプター、またはCP-23L、OPC-515Lを取りはずし、しばらくしてから再度接続してください。

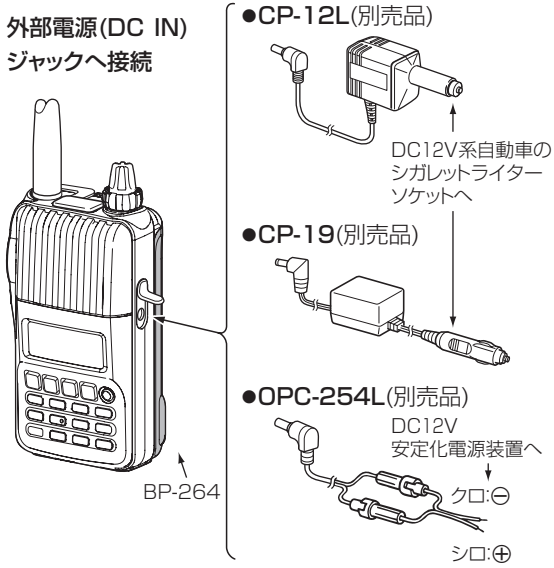
◎充電器を使用しないときは、ACコンセントからACアダプターを取りはずしてください。
ACアダプターを取り付けたままにしておくと、本製品をその近くで使用したときに、スイッチングノイズの影響を受けることがあります。

◎ACアダプターの代わりに、別売品のCP-23L/OPC-515Lもご使用いただけます。

◎バッテリーケース(BP-263)に市販の充電式電池を入れても充電できません。

⚠危険
BP-264以外のバッテリーパックを充電しないでください。

■ 外部電源の接続



◇ 外部電源接続についてのご注意

◎**DC16V**を超える外部電源を接続しないでください。
本製品の外部電源ジャック(DC IN)に入力できる電圧は、**DC10V～16V**です。

◎OPC-254Lは、市販の安定化電源装置(**DC10V～16V**)に接続します。(弊社推奨値 : DC11V)

◎外部電源が供給されると、パワーセーブ機能(☞P61)は無効になります。

◎外部電源を本製品の外部電源ジャック(DC IN)に接続するときは、別売品のCP-19、CP-12L、OPC-254Lをご使用ください。
CP-19(DC-DCコンバーター内蔵)、CP-12L(ノイズフィルター付き)は、12V系自動車のシガレットライターソケットから電源を供給できます。
なお、24V系のバッテリー車でご使用の場合は、DC24Vを12Vに変換する装置(DC-DCコンバーター)が必要です。
お買い上げの販売店にご相談ください。

◎自動車などのシガレットライターソケットから電源を供給する場合は、比較的本製品のエネルギー効率がよい、CP-19をおすすめします。

◎長時間、連続送信すると、本製品を保護するために放熱し、温度が上昇しますので、やけどの原因になることがあります。
また、CP-12L、OPC-254L接続時は、**DC14V以上**の電圧が供給された状態で送信すると、本製品のプロテクト機能が動作して自動的に送信出力が**約2.5W**(MID)に切り替わります。

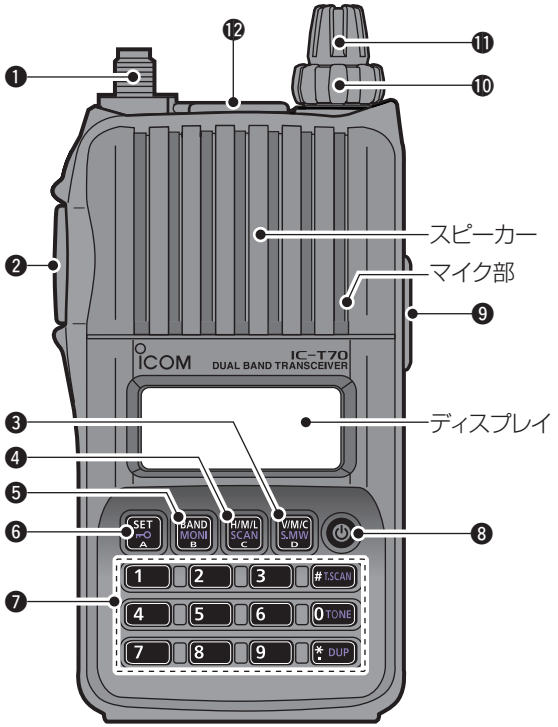
◎バッテリーパックの電圧より、無線機の外部電源ジャック(DC IN)に接続した電圧のほうが低いときは、バッテリーパックからの電源供給になります。

◎外部電源にスイッチング電源を使用した場合、スイッチングノイズの影響を受けることがあります。

◎本製品は、電源を切っても常に微少の電流が流れます。
特に、別売品のCP-19、CP-12Lを接続してしばらく使用しないときは、車のバッテリー保護のため、必ず本製品からCP-19、CP-12Lを取りはずしてください。

3 各部の名称と機能

■ 上面/側面/前面パネル



❶ アンテナコネクター

付属のアンテナを接続するコネクターです。(☞P2)

※別売品のAD-92SMAを使用すれば、BNC接栓の外部アンテナも接続できます。(☞P73)

❷ PTT(送信)スイッチ[PTT]

押しているあいだは送信状態、はなすと受信状態になります。(☞P19)

❸ VFO/MEMORY/CALL-CHキー [V/M/C]

- ●キーを押すごとに、VFOモード、メモリーモード、コールチャンネルモードを切り替えます。(☞P14)
- ●キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、セレクトメモリーライトの状態になります。(☞P28)
- ●DTMFコードの **[D]**を設定します。(IC-T70のみ)(☞P67)

❹ 送信出力キー [H/M/L]

- ●キーを押すごとに、送信出力(HIGH/MID/LOW)を切り替えます。(☞P19)

  ※LOWパワー/MIDパワー選択時は、それぞれディスプレイに**「L」**、**「M」**を表示します。
- ●キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、各種スキャン選択画面を表示します。(☞P40～P42)
- ●DTMFコードの **[C]**を設定します。(IC-T70のみ)(☞P67)

❺ バンド/モニターキー [BAND]
- VFOモード時、キーを押すごとに、運用バンドを切り替えます。(☞P16)
- メモリーモード時、キーを押すと、メモリーバンク選択画面を表示します。
- キーを押しながら[DIAL]を操作すると、スケルチレベルを調整できます。(☞P15)
  音声が途切れるような弱い信号を受信する場合、またはスケルチレベルを変えるときなどに使用します。
- キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、モニター機能を"ON"します。(☞P15)
- DTMFコードの[B]を設定します。(IC-T70のみ)(☞P67)

❻ SET/LOCKキー [SET]
- キーを押すと、SETモードに入ります。(☞P49)
- キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとにロック機能を"ON/OFF"します。(☞P20)
- DTMFコードの[A]を設定します。(IC-T70のみ)(☞P67)

❼ テンキー(IC-T70のみ)(☞P11)

❽ 電源キー [⏻]
長く(約1秒)押すごとに電源を"ON/OFF"します。(☞P13)

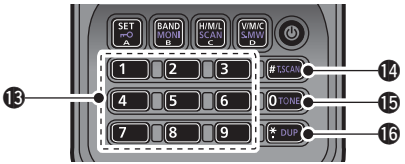
❾ 外部電源ジャック[DC IN]
付属品のバッテリーチャージャーを接続するジャックです。(☞P5)
別売品のCP-12L/19(シガレットライターケーブル)、OPC-254L(電源ケーブル)を使用すると、外部電源による運用もできます。(☞P8)

❿ 音量ツマミ[VOL]
受信時の音量を調整します。(☞P13)
※聞きやすい音量に調整してください。

⓫ DIAL(ダイヤル)ツマミ[DIAL]
VFOモードでは周波数の設定、メモリーモードではメモリーチャンネルを呼び出します。
また、スキャンの方向を変えるときにも使用します。
(☞P38)

⓬ MIC(マイク)/SP(スピーカー)ジャック[MIC/SP]
- 別売品のスピーカーマイクロホンやイヤホンなどを接続するジャックです。
  ※別売品については、11章をご覧ください。
- 本製品をクローニングするときは、クローニングケーブルを接続します。(☞P72)

◇ テンキー(IC-T70のみ)



⓭ 1～9キー [1]～[9]

- ●周波数およびメモリーチャンネルの設定時、数字を入力します。
- ●DTMFコードの **[1]～[9]**を設定します。(☞P67)

⓮ #/T.SCANキー [#]

- ●DTMFコードの **[#]**（表示はF)を設定します。(☞P67)
- ●キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、トーンスキャンがスタートします。(☞P71)

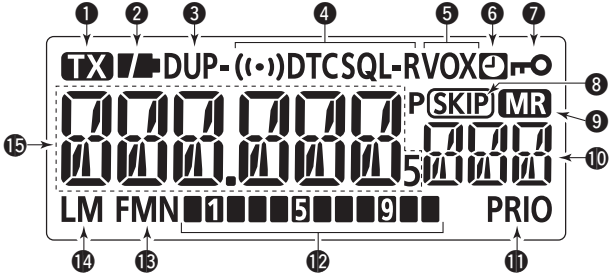
⓯ 0/TONEキー [0]

- ●周波数およびメモリーチャンネルの設定時、数字の **[0]**を入力します。
- ●DTMFコードの **[0]**を設定します。(☞P67)
- ●キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、トーンスケルチ/DTCSコードスケルチ機能を切り替えます。(☞P70)

⓰ */・/DUPキー [*]

- ●周波数設定時、**[・]**（小数点)を入力します。
- ●DTMFコードの **[*]**（表示はE)を設定します。(☞P67)
- ●キーを長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、デュプレックス運用モードの“ON/OFF”と、シフト方向を設定します。
  「DUP−」→「DUP」→「消灯」と切り替えます。(☞P23)

■ ディスプレイ



❶ 送信表示部

送信中に表示します。(☞P19)

❷ 電池残量表示部

電池、バッテリーパックの残量を表示します。(☞P3、P4)
電池、バッテリーパックの残量が少なくなると、電池マークが点滅します。
※充電中は、電池マークが3段階に変化します。(☞P5)
充電が完了すると、電池マークが消灯します。

❸ デュプレックス表示部

デュプレックス運用モード(DUP−/DUP)を選択中に表示します。(☞P23)

❹ 各種トーン機能表示部
各種トーン機能を設定しているときに表示します。
(☞P70)
- **●T** :レピータトーン機能
- **●((•)) TSQL** :トーンスケルチによるポケットビープ機能
- **●TSQL** :トーンスケルチ機能
- **●((•)) DTCS** :DTCSコードスケルチによるポケットビープ機能
- **●DTCS** :DTCSコードスケルチ機能
- **●TSQL-R** :逆トーンスケルチ機能
- **●DTCS-R** :逆DTCSコードスケルチ機能

❺ VOX表示部
OPC-2006(VOX対応変換ケーブル)とヘッドセット接続時、VOX機能をONにすると、表示します。(☞P74)

❻ オートパワーオフ機能表示部
オートパワーオフ機能を設定しているときに表示します。
(☞P59)

❼ ロック表示部
ロック機能が動作中に表示します。(☞P20)

❽ スキップ表示部
スキップ機能を表示します。(☞P41、P43)
- **●SKIP** :メモリースキップ
- **●PSKIP** :プログラムスキップ

❾ メモリーモード表示部
メモリーモードの状態を表示します。(☞P26)

❿ メモリー表示部
メモリーチャンネル番号、メモリーバンクなどを表示します。(☞P26、P27、P32)

⓫ プライオリティー表示部
プライオリティースキャンの動作中に表示します。(☞P44)

⓬ S/RFメーター表示部
受信時は、受信した信号の強さを表示します。(☞P17)
送信時は、RFインジケーターとして表示します。(☞P19)

⓭ モード表示部
運用しているモード(電波型式)を表示します。(☞P19)

⓮ 送信出力表示部
S/RFメーター表示部とあわせて、送信出力を3段階で表示します。(☞P19)
LOWパワー/MIDパワー選択時に表示します。
※HIGHパワー選択時は消灯します。

⓯ 周波数表示部
運用周波数を表示します。(☞P16)

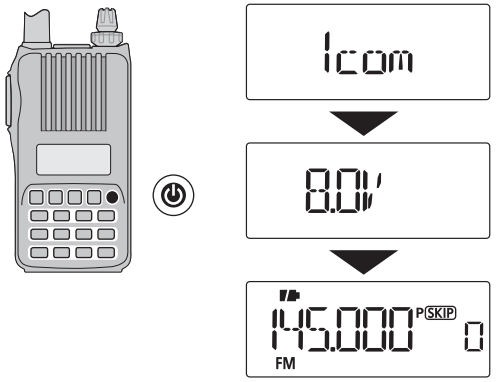
4 基本操作のしかた

■ 電源の“ON/OFF”と音量調整のしかた

◇ 電源を入れる

[⏻]を長く押して、電源を**“ON”**にします。

- ビープ音が鳴り、**「Icom」**を表示したあと、供給電圧を表示し、運用周波数を表示します。
  ※電圧表示を非表示にするには、イニシャルSETモードの**「VOLt」(電圧表示機能の設定)**で変更できます。(☞P61)
- 電源を切るときも、同じ操作をします。

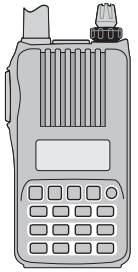


◇ 音量を調整する

[VOL]を回して、24段階で音量を調整します。
(音量レベルはディスプレイに表示します。)

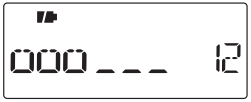
- 右に回すと音量レベルが大きくなり、左に回すと小さくなります。

※BEEP(操作音)の音量を変更したいときは、イニシャルSETモードの**「bEEPLV」(ビープレベルの設定)**で変更できます。(☞P60)



表示	音量レベル
___ ___	0(無音)
0__ ___	1～4
00_ ___	5～9
☆000 ___	10～13
0000__	14～18
00000_	19～23
000000	24(最大)

☆印は、初期設定値(12)



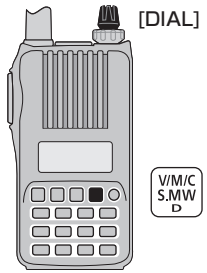
初期設定値(12)

■ 運用モード[VFO/メモリー/コールチャンネル]の切り替えかた

- **VFOモードとは**
  [DIAL]またはテンキー(IC-T70のみ)で、周波数を設定するモードです。
- **メモリーモードとは**
  あらかじめ記憶させたメモリーチャンネル(M-CH)を呼び出して運用するモードです。
- **コールチャンネルモードとは**
  コールチャンネル(CALL-CH)とは、各バンドで決められた呼出周波数を意味し、メインチャンネルとも呼ばれます。

◇ モードの切り替えかた

① **[V/M/C]**を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、コールチャンネルモードを切り替えます。
② **[DIAL]**を回すと、周波数を設定したり、M-CHやCALL-CHのチャンネル番号を呼び出したりします。



- VFOモード選択時は周波数が表示します。

VFOモード表示

- メモリーモード選択時は「MR」表示とM-CH番号が点灯します。

メモリーモード表示

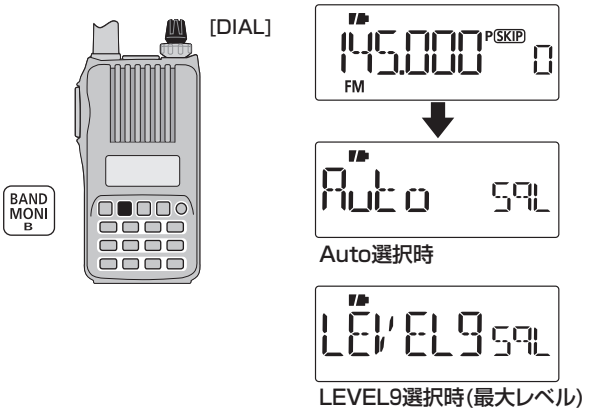
- コールチャンネルモード選択時は「C0」または「C1」表示が点灯します。(☞P27)

CALL-CHモード表示

■ スケルチレベルを調整する

① [MONI](BAND)を押しながら[DIAL]を1クリック回すと、現在設定しているスケルチレベルが表示されます。
- 初期設定で「Auto」を設定しています。

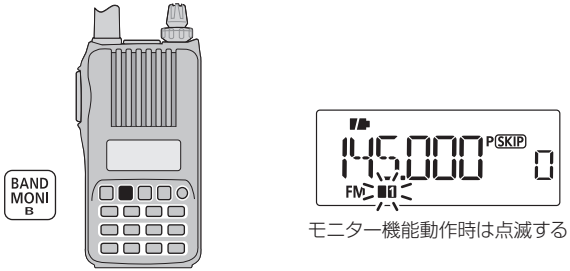
② [MONI](BAND)を押しながら[DIAL]を回して、スケルチレベルを調整します。
- スケルチレベル
  OPEn(開放)、Auto(自動)、LEVEL1～LEVEL9
- スケルチレベルの数値が小さいほど、弱い信号でも受信できます。



■ モニターのしかた

受信信号が弱かったり、途切れたりして聞こえにくい場合に使用します。
[MONI](BAND)を押しているあいだ、スケルチを開いて受信します。
スケルチレベルの「OPEn」と同じ状態になります。

- モニターホールド機能使用時は、長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと"ON"(スケルチが開く)になり、再度短く押すと"OFF"(スケルチが閉じる)になります。
  モニターホールド機能の設定は、イニシャルSETモードの「moni」(モニター機能の設定)で変更できます。(☞P63)



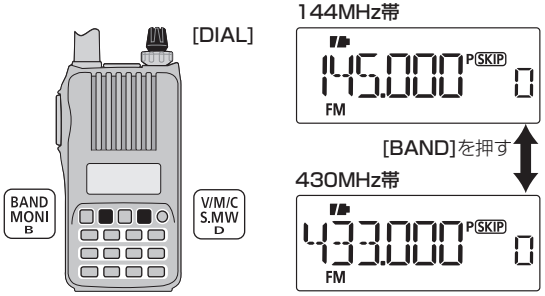
モニター機能動作時は点滅する

■ 周波数を設定するには

本製品で運用できるバンドは、アマチュアバンドの「144MHz帯」/「430MHz帯」となっています。

◇ 運用バンドから設定する

① [V/M/C]を数回押して、VFOモードにします。
② [BAND]を押すごとに、144MHz帯と430MHz帯を切り替えます。
③ [DIAL]を回して、周波数を設定します。
※周波数の幅は、チューニングステップの設定で変更できます。(☞P17)
※[DIAL]を速く回すと、さらにスピードアップするダイヤルスピード機能が動作します。(☞P63)

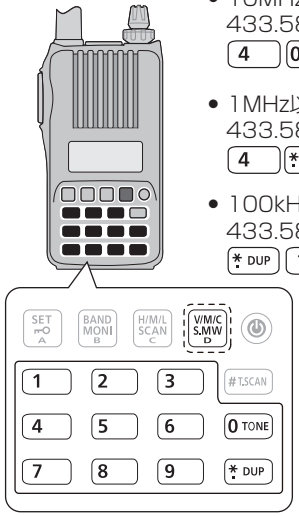


◇ テンキーで周波数を入力する(IC-T70のみ)

テンキー([0]～[9]および[･])で、周波数を直接入力できます。
- 動作範囲外の周波数を入力したときは、キーを押す前の周波数表示に戻ります。

① [V/M/C]を数回押して、VFOモードにします。
② テンキーから、希望の数値を順番に入力します。
1kHz桁まで入力すると、「ピー」という音がして確定します。

[入力例]
- 433.580MHzの設定
  4 3 3 5 8 0 TONE
- 10MHz以下の周波数を変更する場合
  433.580MHzを440.000MHzにする
  4 0 TONE * DUP 0 TONE 0 TONE 0 TONE
- 1MHz以下の周波数を変更する場合
  433.580MHzを434.140MHzにする
  4 * DUP 1 4 0 TONE
- 100kHz以下の周波数を変更する場合
  433.580MHzを433.140MHzにする
  * DUP 1 4 0 TONE



【ご注意】
1kHz桁を入力するときは、チューニングステップの設定により、入力できない場合があります。
このときは、[0](数値)を入力し、[DIAL]で周波数を設定してください。

■ チューニングステップ

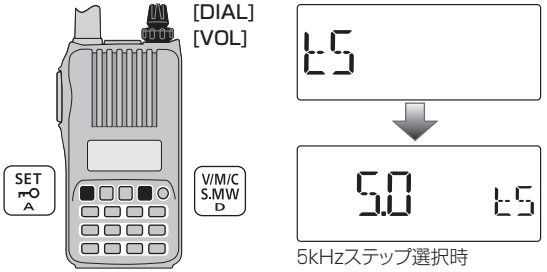
チューニングステップ(TS)とは、[DIAL]で周波数を設定するときに、変化する周波数の幅です。
また、VFOスキャン(☞P37)でも変化する周波数の幅は同じです。

チューニングステップ　（単位：kHz）

5.0	10.0	12.5	15.0	20.0	25.0
30.0	50.0	100.0	125.0	200.0	

◇ チューニングステップを変更する

① [SET]を押して、SETモードに入ります。
② [DIAL]を回して、「tS」(チューニングステップの設定)を選択します。
③ [VOL]を回して、チューニングステップを選択します。
※VFOモード、メモリーモードに関係なく設定できます。
④ [V/M/C]を押して、SETモードを解除します。

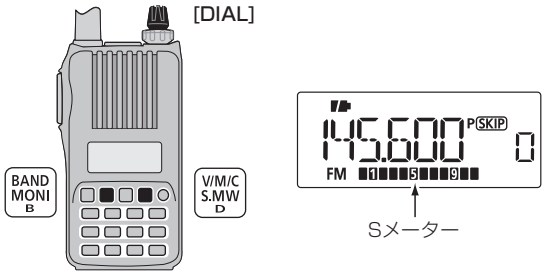


5kHzステップ選択時

■ 受信の基本操作

◇ アマチュアバンドの受信

《例》145.600MHzを受信する
① [V/M/C]を押して、VFOモードを選択します。
※テンキーで周波数を設定
(IC-T70の場合、②と③の操作が省略できます)
[1][4][5][6][0][0]と押します。
② [BAND]を数回押して、144MHz帯を選択します。
(初期表示：145.000MHz)
③ [DIAL]を回して、145.600MHzを設定します。
④ 受信すると、信号の強さに応じてSメーターが振れます。



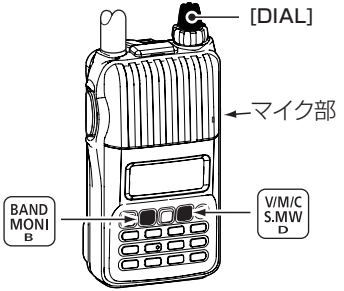
■ 送信のしかた

◇ アマチュアバンドの運用

送信する前に、その周波数を他局が使用していないか確認し、混信や妨害を与えないようにご注意ください。
また、バンドの使用区別(バンドプラン)を厳守のうえ、運用してください。(☞P83)
交信相手との距離に応じて、送信出力を切り替えます。
※外部電源ジャックに接続する電圧は、定格範囲で使用してください。(弊社推奨値：DC11V)(☞P8)

◇ 運用バンドと周波数を設定する

① **[V/M/C]**を押して、VFOモードを選択します。
② **[BAND]**を数回押して、アマチュアバンド(144MHz帯/430MHz帯)を選択します。
③ **[DIAL]**を回して、送信周波数を設定します。
※または、テンキー(IC-T70のみ)でダイレクトに設定します。
435.680MHzの場合：**[4][3][5][6][8][0]**と押します。

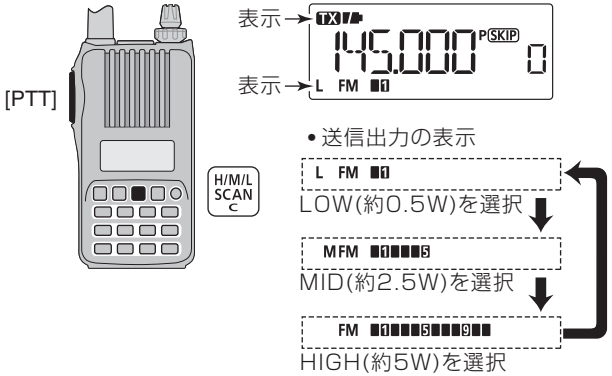


⚠注意

- **長時間、連続送信しないでください。**
  長時間、連続送信すると、温度が上昇するため、タイムアウトタイマー機能の初期設定値を5分に設定しています。
  そのため、タイムアウトタイマー機能(☞P62)を変更するときは、本製品の取り扱いにご注意ください。
  設定値によっては、長時間、連続送信した場合に、温度が上昇しますので、やけどの原因になることがあります。
  また、アルカリ電池使用時は、電池が熱くなり、やけどの原因になることがありますので、MIDパワーまたはLOWパワーで送信されることをおすすめします。
- 外部電源使用時で、連続送信される場合は、特に、本製品の放熱が阻害されるような取り扱いをしないでください。
  十分に放熱されないため、発熱して、変形や故障、やけどの原因になることがあります。
- 本製品が高温になると、本製品を保護するため、送信出力が段階的に約2.5W(MID)まで下がります。
  外部電源使用時は、高温になりやすいため、バッテリーパック使用時よりパワーダウンが速まります。
  そして、さらに熱くなると、送信を禁止します。
  このようなときは、本製品の温度が十分に下がり、送信できるようになってからお使いください。
  本製品の温度が十分に下がり切らないあいだは、送信出力が約2.5W(MID)になります。

◇ 送信出力を設定し送信する

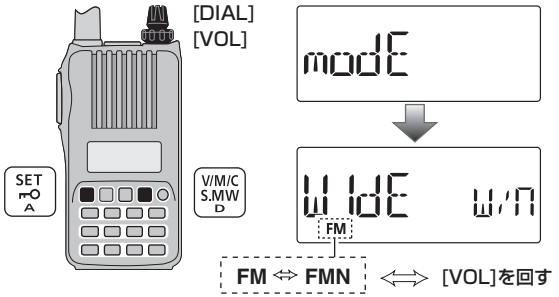
① **[H/M/L]**を押すごとに、**“LOW”**、**“MID”**と**“HIGH**（表示なし)”を切り替えます。
※LOW/MID出力のとき、**「L」**、**「M」**表示が点灯します。
※HIGH出力のとき、送信出力表示が消灯します。
② **[PTT]**を押しながら、マイク部に向かって話します。
※設定した送信出力をS/RFメーターに表示します。
※**[PTT]**を押すと、**「TX」**表示が点灯します。
③ **[PTT]**から指をはなすと、受信状態に戻ります。



マイク部と口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。
マイク部に口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

◇ FMナローモードについて

FMナローモードは、送信DEV.(変調度)/受信通過帯域幅を狭く(約2.5 kHz)設定します。
設定した受信モードは、受信中のバンドだけに有効です。
① **[SET]**を押して、SETモードに入ります。
② **[DIAL]**を回して、**「modE」(受信モードの設定)**を選択します。
● 受信モードは、初期設定で**「WIdE」**を設定しています。
③ **[VOL]**を回して、**「nARROW」**を選択します。
④ **[V/M/C]**を押して、SETモードを解除します。

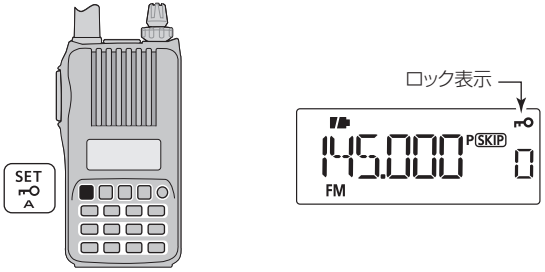


■ ロック機能の使いかた

不用意に[DIAL]やキーに触れても、周波数や運用状態が変わらないようにする機能です。

[🔑](SET)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。

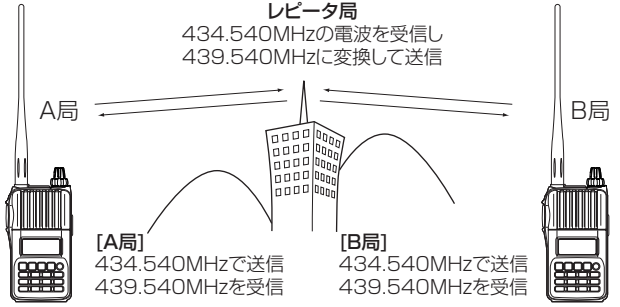
- ロック機能設定時は、「🔑」(ロック表示)が点灯します。
- ロック機能を解除するときも、同じ操作をします。
- ロック機能を設定しても、[VOL]、[PWR]、[PTT]、[🔑](SET)、[MONI](BAND)、スケルチレベルの調整([MONI](BAND)+[DIAL])はロックされません。
- [PTT]をロックするには、イニシャルSETモードの「Ptt Lk」(PTTロック機能の設定)で変更できます。(☞P62)



5 レピータ(430MHz帯のみ)/デュプレックス運用について

■ オートレピータ機能での交信

本製品は、オートレピータ機能を搭載しています。
周波数を**439.000MHz～440.000MHz**に設定するだけで、自動的にレピータ運用モードになります。

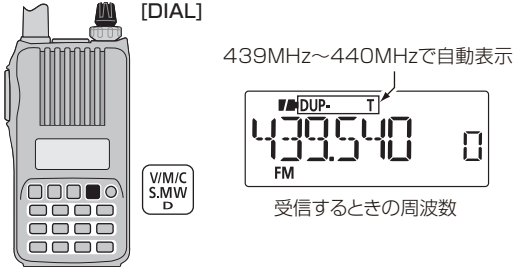


◎レピータとは、山や建物などの障害物で直接交信できない局との交信を可能にする自動無線中継局のことです。
◎オートレピータ機能は、イニシャルSETモードの**「AutoRP」(オートレピータ機能の設定)**項目で設定できます。(☞P60)
◎430MHz帯では、各地区にレピータが設置されていますので、レピータ局の周波数は、運用の前にJARL NEWSや各専門誌、インターネットなどでご確認ください。

【オフセット周波数とは?】
受信周波数に対して送信周波数がシフトする幅のことです。

◇ レピータ周波数の設定

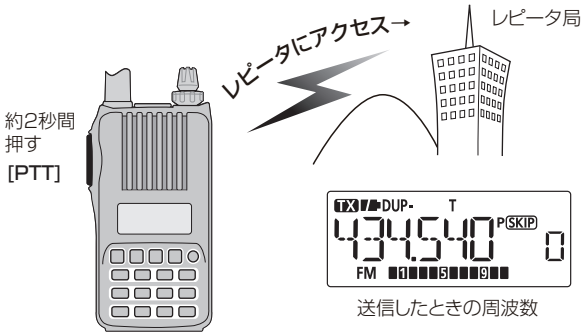
① **[V/M/C]**を数回押して、VFOモードにします。
② **[DIAL]**またはテンキー(IC-T70のみ)を操作して、レピータ局から電波を受信するときの周波数を下記の範囲で設定します。
- 設定範囲 : 439.000MHz～440.000MHz
- トーン周波数(88.5Hz/初期設定値)とオフセット周波数(−5MHz/430MHz帯の初期設定値)が自動設定され、**「DUP− T」**をディスプレイに表示します。



【ご参考】
レピータアクセス用トーン周波数(☞P50)とオフセット周波数(☞P52)を変更すると、オートレピータ機能のトーン周波数とオフセット周波数も変更されます。
設定されたオフセット周波数によっては、送信したとき、「オフバンド表示」(☞P24)になることがあります。

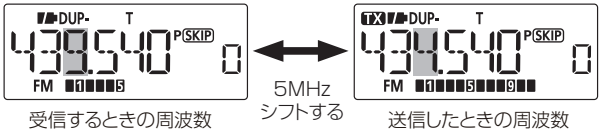
◇ レピータ局にアクセスする

約2秒間だけ[PTT]を押します。
発射した電波がレピータ局に届いていれば、[PTT]をはなしたときに、ID信号(モールス符号または音声)を受信します。
※[PTT]をはなすタイミングが遅いときは、レピータから送信されたID信号を受信できない場合があります。



◇ レピータ局を中継して交信する

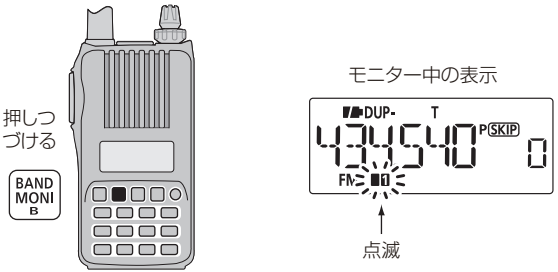
レピータ局を使用しないときと同じように、送信と受信を交互に繰り返しながら交信します。



◇ レピータ局の中継が必要かどうかを確認する

レピータ局の運用中に、レピータを中継しなくても交信できるかどうか確認できます。

[MONI](BAND)を押しているあいだ、交信相手の信号が受信(モニター)できれば、レピータ局を使用しないで交信できます。
モニターしているあいだは、**[S/RFメーター表示部]**の2ドットだけが点滅します。
※交信相手の信号が受信できるときは、439.000MHz以下の周波数に移って交信してください。
※モニター操作のときも、周波数表示がオフセット周波数分だけシフトします。



■ デュプレックス運用について

デュプレックス運用とは、通常の交信(シンプレックス：送受信同一周波数)とは異なり、同一バンド内で送信と受信の周波数をずらして交信することです。

◎「DUP(プラス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数(☞P52)分だけ高くなります。

◎「DUP−(マイナス)」を設定すると、送信周波数が受信周波数より、オフセット周波数分だけ低くなります。

◇ オフセット周波数の設定

① **[V/M/C]**を押して、VFOモードにします。

② **[DIAL]**またはテンキー(IC-T70のみ)を操作して、運用周波数を設定します。

③ **[SET]**を押してSETモードに入り、**[DIAL]**を回して、**「OFFSEt」(オフセット周波数の設定)**を選択します。

④ **[VOL]**を回して、オフセット周波数を選択します。
- 設定しているチューニングステップで切り替えます。

⑤ **[V/M/C]**を押して、SETモードを解除します。

初期設定値:430MHz帯

初期設定値:144MHz帯

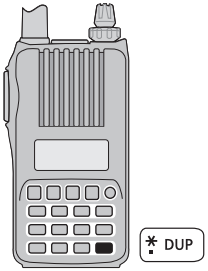
【ご参考〜オフセット周波数について】
オフセット周波数を変更すると、オートレピータ機能のオフセット周波数も変更されます。
設定されたオフセット周波数によっては、送信したとき、「オフバンド表示」(☞P24)になることがあります。

◇ デュプレックスモードの設定(IC-T70)

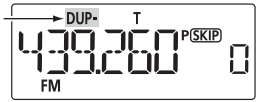
① **[V/M/C]**を押して、VFOモードにします。

② **[DIAL]**またはテンキーを操作して、運用周波数を設定します。

③ **[DUP](.)**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すごとに、シンプレックスから**「DUP−(マイナス)」→「DUP(プラス)」**のデュプレックスに切り替わります。
※**[DUP](.)**を押しながら、**[DIAL]**を回しても選択できます。



表示



◇ デュプレックスモードの設定(IC-S70)

① **[V/M/C]**を押して、VFOモードにします。

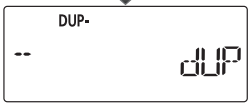
② **[DIAL]**を回して、運用周波数を設定します。

③ **[SET]**を押してSETモードに入り、**[DIAL]**を回して、**「dUP」(デュプレックスの設定)**を選択します。

④ **[VOL]**を回して、デュプレックスを選択します。

⑤ **[V/M/C]**を押して、SETモードを解除します。

デュプレックスの設定



DUP−モード選択時

◇ デュプレックスモードで交信する

①交信の前に[MONI](BAND)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、他局が送信周波数を使用していないか確認します。
- 設定しているオフセット周波数のシフト幅(5.000MHz)で周波数が変化します。

②送信と受信を交互に繰り返しながら交信します。

受信するときの周波数　5MHz シフトする　送信したときの周波数

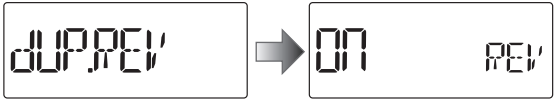
◇ デュプレックスリバース機能について

デュプレックス運用で、送信周波数と受信周波数を入れ替えて運用するときに設定します。

①[SET]を押してSETモードに入り、[DIAL]を回して、「dUP. REV」(デュプレックスリバース機能の設定)を選択します。

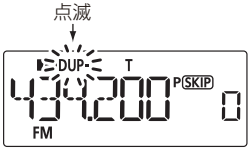
②[VOL]を回して、ONを選択します。

③[V/M/C]を押して、SETモードを解除します。



デュプレックスリバース機能の設定　Onを選択

- 「On」に設定すると、受信周波数と送信周波数が入れ替わります。
- 運用画面でデュプレックス表示が点滅します。
- 送信周波数が帯域外の場合は、受信周波数でモニターします。



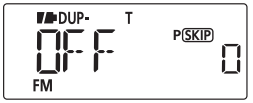
オフセット周波数　：5.000Hz
デュプレックス　：DUP−

リバース機能	受信周波数	送信周波数
OFF	439.260MHz	434.260MHz
On	434.260MHz	439.260MHz

■ 送信時のオフバンド表示について

レピータ局にアクセスしたときや、デュプレックスモードで送信したとき、下記のような表示になるときは、オフセット周波数(☞P52)を設定しなおしてください。

※アマチュアバンドから逸脱するようなオフセット周波数(シフト幅)に設定されているため、送信を停止したことを知らせる表示です。



レピータ局にアクセスしたときのオフバンド表示

デュプレックスモードで送信したときのオフバンド表示

【ご注意】
イニシャルSETモードのオートレピータ機能(☞P60)が、「On」の場合、439.000MHz~440.000MHz以外の周波数に変更すると、デュプレックスモードは解除されます。

6 メモリーの使いかた

■ メモリーモードについて

よく使用する周波数や運用情報などを、あらかじめメモリーチャンネル(**以下、M-CHと略記します**)に記憶させておき、すばやく呼び出して運用できます。

◇ 表記について

- 本製品には、通常のM-CHとして250CH、プログラムスキャン用チャンネル(**以下、PROGRAM-CHと略記します**)として50CH(0A/0B～24A/24B)、およびコールチャンネル(**以下、CALL-CHと略記します**)として2CH(C0、C1)の合計302CHを搭載しています。
- M-CHを運用するときは、メモリーモードにします。
  メモリー(記憶)していないM-CHは表示されないので、すばやく目的のM-CHを呼び出せます。
- M-CHに記憶するときは、VFOモードで内容を設定したあと、書き込み操作をします。

◇ M-CHに記憶できる内容

すべてのM-CHで運用周波数、運用モードのほかに、下記の内容を記憶します。

デュプレックスのON/OFF	送信出力の設定
デュプレックスリバース	メモリーバンク
シフト方向(+/−)	メモリーネーム
オフセット周波数	スキップチャンネル
トーンスケルチのトーン周波数と運用モードの ON/OFF	DTCSコードスケルチのDTCSコードと運用モードのON/OFF
レピータアクセス用トーン周波数	受信モード
DTCSコード・極性	チューニングステップ(TS)

【ご注意】
メモリーの内容は、静電気や電気的雑音などで消失することがあります。
また、故障や修理の際にも消失する場合があります。
メモリーの内容を紙などに控えておくか、CS-T70(クローニングソフトウェア)を使用して、パソコンに保存することをおすすめします。

■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容

チャンネル	お　も　な　用　途
0～249 (M-CH)	● 通常のM-CHとして使用する ● 工場出荷時に設定されている内容 「0」：145.000MHz 「1」：433.000MHz ※「2～249」は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しない
0A/0B～ 24A/24B (PROGRAM-CH)	● プログラムスキャンの周波数設定用 (25組×2CH) ● 工場出荷時に設定されている内容 「0A」：144.000MHz/「0B」：440.000MHz 「1A」：144.000MHz/「1B」：146.000MHz 「2A」：430.000MHz/「2B」：440.000MHz ※「3A/3B～24A/24B」は工場出荷時、ブランクチャンネルのため表示しない
C0、C1 (CALL-CH)	● 各アマチュアバンドの呼出周波数(☞P27)を設定している 「C0」：145.000MHz 「C1」：433.000MHz ● 通常のM-CHとして使用できる

■ メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた

M-CHは、[DIAL]とテンキー(IC-T70のみ)のどちらからでも呼び出せます。

※[DIAL]による呼び出しは、書き込まれているM-CHだけ呼び出します。

※テンキー(IC-T70のみ)による呼び出しは、すべてのM-CHを呼び出します。

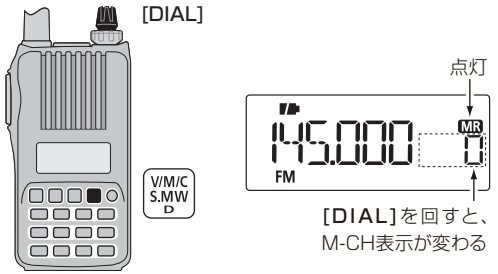
※テンキー(IC-T70のみ)で呼び出している途中で、[V/M/C]を押したときは、キー入力前の状態に戻ります。

◇ [DIAL]操作で呼び出すには

① [V/M/C]を数回押して、メモリーモードにします。

② [DIAL]を回します。

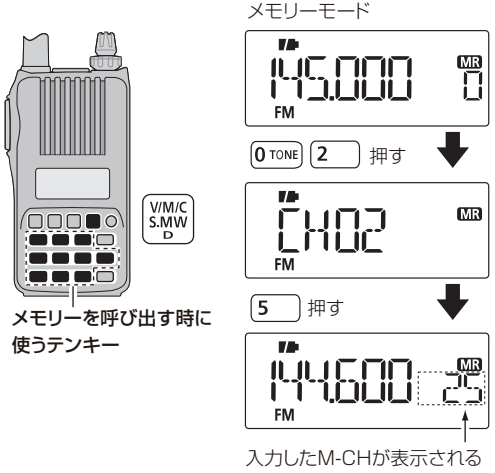
※書き込まれているM-CHだけを呼び出します。



◇ テンキーで呼び出すには(IC-T70のみ)

① [V/M/C]を数回押して、メモリーモードにします。
②テンキーから、呼び出したいM-CH番号(3桁)を、直接入力します。(ブランクチャンネルも呼び出します。)

《例》 M-CH25を呼び出す場合
[V/M/C]を押して、メモリーモードにします。
テンキーで[0]、[2]、[5]と入力します。

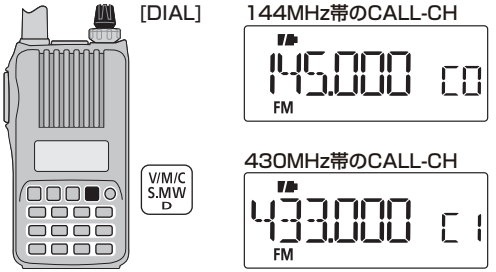


■ コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた

CALL-CHとは、各バンドで決められた呼出周波数を意味し、メインチャンネルとも呼ばれています。
通常のM-CHと同様に、自由にメモリー内容を書き換え(☞P28)できるので、使用頻度の高い周波数を記憶しておくと便利です。

初期設定値
- **C0**:145.000MHz(144MHz帯)
- **C1**:433.000MHz(430MHz帯)

① [V/M/C]を数回押して、CALL-CHモードにします。
② [DIAL]を回して、CALL-CHを選択します。
③前に使用していた運用モードに戻りたいときは、[V/M/C]を数回押すとVFOモード、メモリーモードに戻ります。

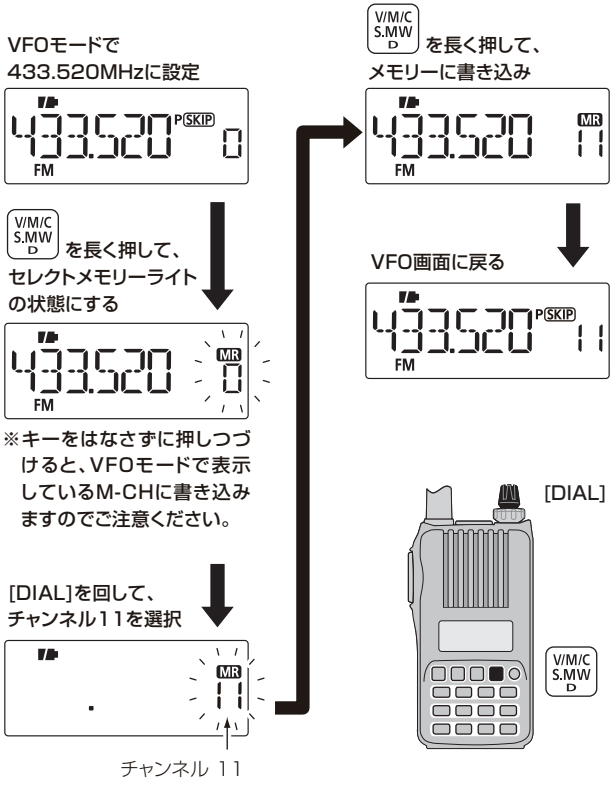


■ メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた

M-CH、CALL-CH、PROGRAM-CHへの書き込み、または書き換えをします。
工場出荷時は、チャンネル「2～249」までがブランクチャンネルになっています。
なお、運用バンドによるM-CHの区別はありません。

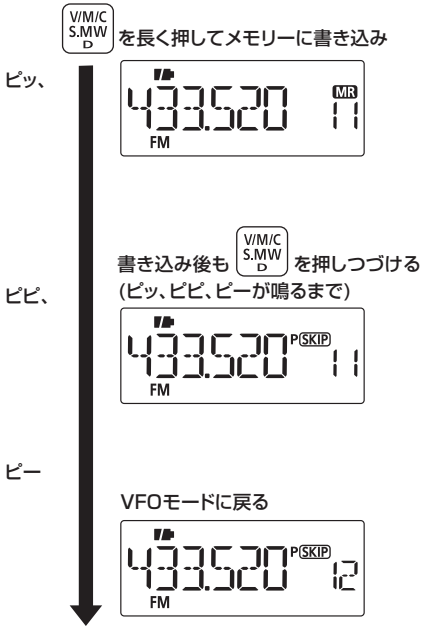
◇ M-CHの書き込みかた

《例》433.520MHzをM-CH11に書き込む場合
① [V/M/C]を数回押して、VFOモードにします。
② [BAND]を数回押して、運用バンドを選択します。
③ [DIAL]を回して、周波数を433.520MHzにします。
※テンキー(IC-T70のみ)で設定するときは、
[4]、[3]、[3]、[5]、[2]、[0]と押します。
④ [S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライトの状態にします。
●メモリーチャンネルが点滅して、メモリー内容を表示します。
※キーをはなさずに押しつづけると、VFOモードで表示しているM-CHに書き込みますのでご注意ください。
⑤ [DIAL]を回して、M-CHを「11」にします。
※下記を選択すると書き込む場所が変わります。
「C0」/「C1」を選択 : CALL-CHに書き込み
「VFO」を選択 : VFOにコピー
「0A/0B～24A/24B」を選択 : PROGRAM-CHに書き込み
⑥ [S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を書き込み、VFOモードに戻ります。
●VFOモードに戻る前にメモリー内容を表示します。



◇ 書き込み後のオートインクリメントについて

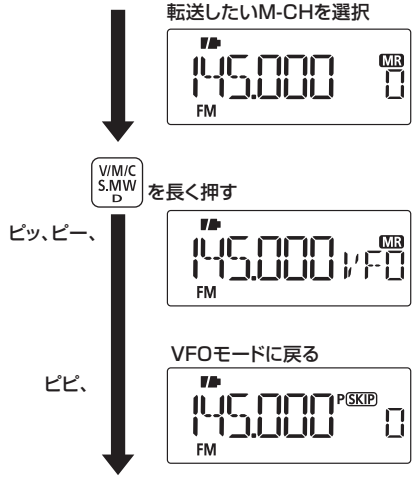
M-CHに順次つづけて書き込むときに便利な機能です。
「◇M-CHの書き込みかた」(☞P28)の手順⑥で、書き込み完了後も[S.MW](V/M/C)を押しつづける(ピッ、ピピ、ピーが鳴るまで)と、M-CHが1CHだけ自動的に繰り上がり、VFOモードになります。



◇ メモリー内容をVFOに転送して使うには

使用しているM-CH、またはCALL-CHの周辺に周波数を移して、交信する場合などに便利な機能です。

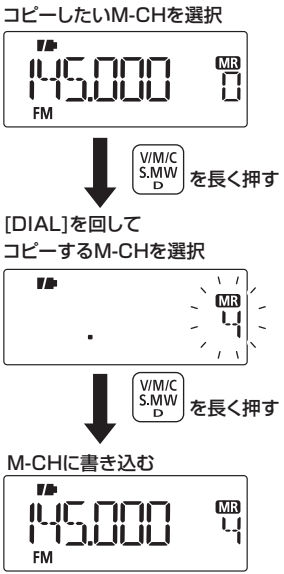
① [V/M/C]を数回押して、メモリーモード、またはCALL-CHモードにします。
② [DIAL]で転送したいM-CH/CALL-CHを呼び出します。
③ [S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピー、ピピと鳴るまで)押します。
M-CH/CALL-CHの内容をVFOに転送し、VFOモードになります。



◇ メモリー内容をほかのチャンネルへコピーするには

M-CHの内容をCALL-CHやプログラムスキャン用の周波数としてコピーする場合に便利な機能です。

① **[V/M/C]**を数回押して、メモリーモードにします。
② **[DIAL]**で、コピーしたいM-CHを呼び出します。
③ **[S.MW] (V/M/C)**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライトの状態にします。
　●M-CHが点滅して、メモリー内容を表示します。
④ **[DIAL]**を回して、コピーする先のM-CHを選択します。
　※下記を選択すると書き込む場所が変わります。
　「C0」/「C1」を選択
　：CALL-CHにコピー
　「VFO」を選択
　：VFOにコピー
　「0A/0B～24A/24B」を選択
　：PROGRAM-CHにコピー
⑤ **[S.MW] (V/M/C)**を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押して書き込みます。

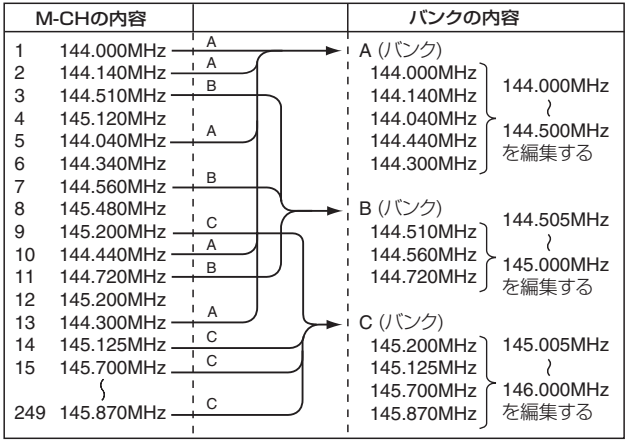


■ メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する

本製品のM-CHとPROGRAM-CHに搭載している300CHに書き込んだ内容を、それぞれ26個のバンク(A～Z)に分割して編集できます。
各バンクには、00～99(100CH)のチャンネルが割り当てられています。

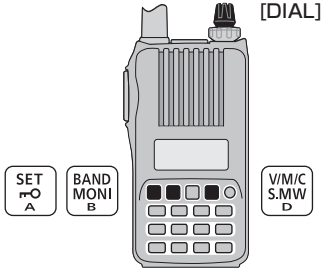
【ご注意】
メモリーバンクは、M-CHを整理するために使用します。
編集元のM-CH自体を変更、または更新すると、メモリーバンクの内容も変更されます。

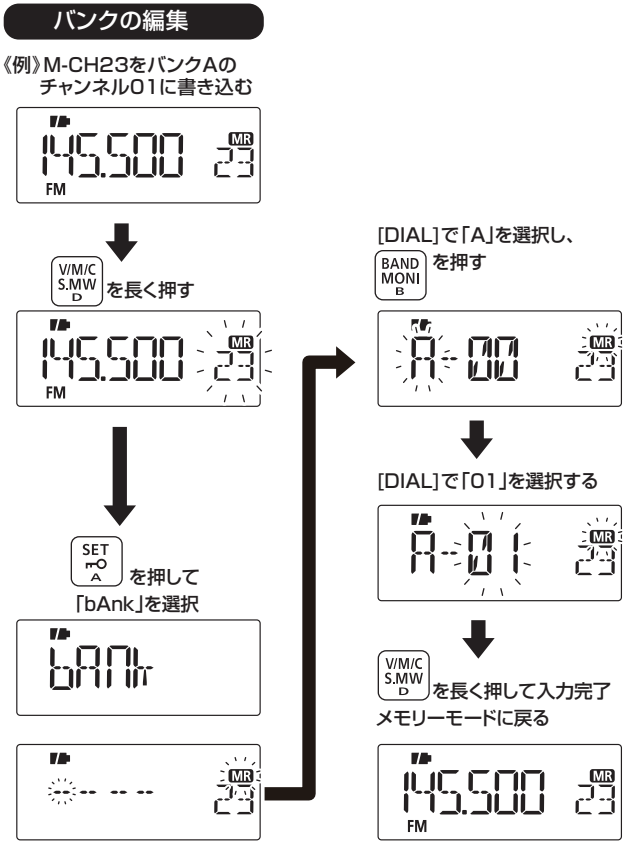
◇ M-CHとバンクチャンネルの使用例



◇ 編集のしかた

① [V/M/C]を数回押して、メモリーモードにします。
② [DIAL]を回して、バンクで編集するM-CHを選択します。
③ [S.MW] (V/M/C)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライトの状態にします。
●M-CH、メモリーモード表示部が点滅して、メモリー内容を表示します。
④ [SET]を押して、「bAnk」項目を選択します。
※選択したM-CHをすでに編集している場合は、編集しているバンクとチャンネルを表示します。
⑤ [DIAL]を回して、編集したいバンク(A～Z)を選択します。
⑥ [BAND]を押すと、バンクチャンネル(下2桁)が点滅します。
●再度[BAND]を押すと、バンク(A～Z)が点滅します。
⑦ [DIAL]を回して、バンクチャンネル(00～99)を選択します。
※すでに編集しているバンクチャンネルは、選択できません。
⑧ [S.MW] (V/M/C)を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、指定したバンクチャンネルを確定し、メモリーモードに戻ります。

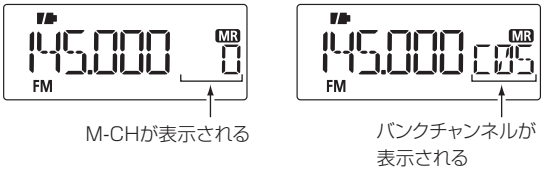


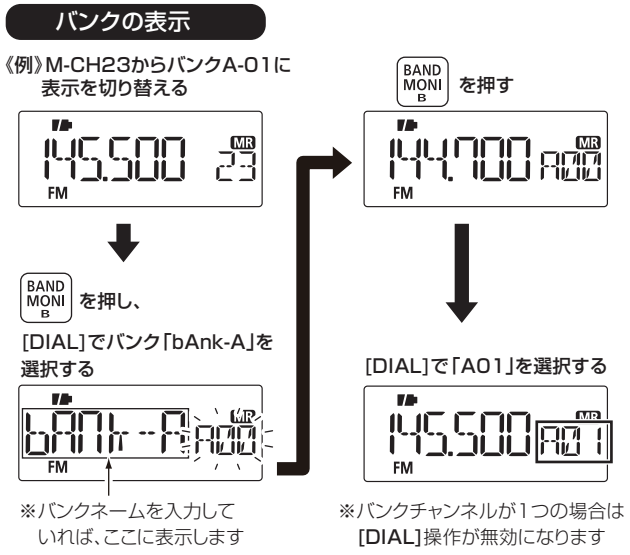


◇ メモリーバンクモードの表示切り替え

表示をメモリーモードからメモリーバンクモードに切り替えます。

① [V/M/C]を数回押して、メモリーモードにします。
② [BAND]を押して、メモリーバンクモード選択状態にします。
　●メモリー表示部が点滅します。
③ [DIAL]を回して、表示したいバンク(A～Z)を選択します。
④ 選択したら[BAND]を押して、バンクを確定します。
⑤ [DIAL]を回すと、書き込んだバンクチャンネル(00～99)を選択できます。
　※選択したバンクにバンクチャンネルを1つしか書き込んでいない場合は、[DIAL]を回してもほかのチャンネルは表示しません。
　※メモリーバンクモードを解除したい場合は、再度手順②～④を操作し、メモリーモード画面を選択してください。





■ メモリー/バンク/スキャンネームの使いかた

メモリーに記憶しているすべてのチャンネル、または編集した各バンクに、名前(ネーム)を入力できます。

※スキャンネームは、イニシャルSETモードの**「S nAmE」(スキャンネーム表示の設定)**項目(☞P64)で変更できます。

◇ メモリー/バンク/スキャンネームを入力する

① **[V/M/C]**を数回押して、メモリーモード、またはCALL-CHモードにします。

② **[DIAL]**を回して、ネームを入れたいM-CHを選択します。
※スキャンネームを入力するときは、**「0A/0B～24A/24B」**(PROGRAM-CH)を選択してください。

③ **[S.MW] (V/M/C)**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、セレクトメモリーライトの状態にします。
※メモリーチャンネルが点滅して、メモリー内容を表示します。

④ **[SET]**を数回押して、**「m nAmE**(メモリーネーム)**」**、**「b nAmE**(バンクネーム)**」**、**「S nAmE**(スキャンネーム)**」**項目を選択します。
※バンクネームの入力画面は、バンクが選択されているときに表示します。
※すでにネームが登録されているときはネームを表示、未登録のときはブランク表示になります。

⑤ **[SET]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
(メモリーネーム、バンクネーム、またはスキャンネームが選択されて、1桁目が点滅します。)

⑥ **[DIAL]**を回して、1桁目の文字を選択します。
※**[BAND]**を押すとカーソルを右に、**[SET]**を押すとカーソルを左に移動します。

⑦ 前記⑥を繰り返して、ネームを入力します。
※ネームは6文字以内で入力できます。

⑧ **[S.MW] (V/M/C)**を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと書き込みます。

※ネームを訂正したいときは、ネームを入れなおしてください。最後に入れたネームが有効となります。

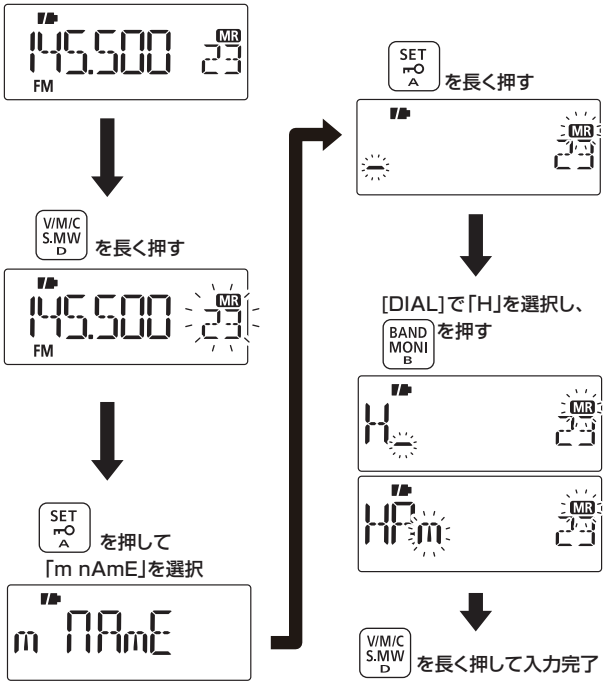
※バンクネームは、バンクごとにネームを入力できますが、バンクチャンネルごとにネームを入力できません。

● **使用可能文字一覧**

A	b	C	d	E	F	G	H	I	J	k	L	m
[A]	[b]	[C]	[d]	[E]	[F]	[G]	[H]	[I]	[J]	[k]	[L]	[m]
n	O	P	q	r	S	t	U	v	W	X	y	Z
[n]	[O]	[P]	[q]	[R]	[S]	[t]	[U]	[V]	[W]	[X]	[y]	[Z]
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]			
+	-	=	*	/	(	)	:					
[+]	[-]	[=]	[*]	[/]	[(]	[)]	[:]	[スペース]				

メモリーネームの入力

《例》M-CH23に
「HAm」を入力する

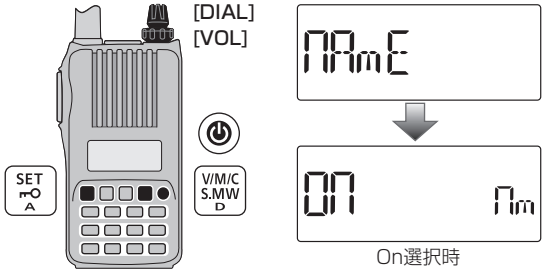


◇ ネームを表示するときは

メモリーモードで、周波数表示からネーム表示に切り替えます。

① [V/M/C]を数回押して、メモリーモードにします。
② [⏻]を長く押して、電源を"OFF"にします。
③ [SET]を押しながら[⏻]を長く押して、イニシャルSETモードに入ります。
④ [DIAL]を回して、「nAmE」(メモリーネームの設定)を選択します。
⑤ [VOL]を回して、「On」を選択します。
⑥ [⏻]を押して、イニシャルSETモードを解除します。

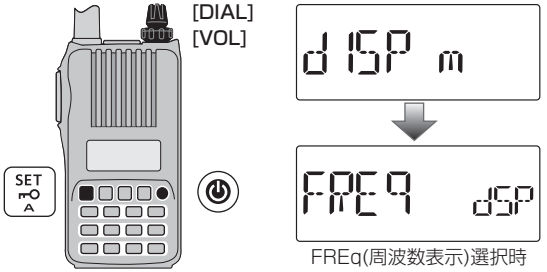
※スキャンネームは、プログラムスキャンでスキャン範囲を選択するときに表示します。(☞P40)
※バンクネームは、バンクを選択するときに表示します。(☞P32)



◇ 表示モードについて

本製品の表示をチャンネル表示やプライベートチャンネル表示に変更します。

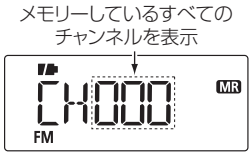
① あらかじめ運用する周波数をメモリーに登録しておきます。(☞P28)
② **[⏻]**を長く押して、電源を**"OFF"**にします。
③ **[SET]**を押しながら**[⏻]**を長く押して、イニシャルSETモードに入ります。
④ **[DIAL]**を回して、**「dISP m」(表示モードの設定)**を選択します。
⑤ **[VOL]**を回して、**「FREq**(周波数表示)**」**、**「CH**(チャンネル表示)**」**、**「PRIV**(プライベートチャンネル表示)**」**項目を選択します。
CH切替/音量調整/スケルチレベルの設定はモードに関係なく操作できます。



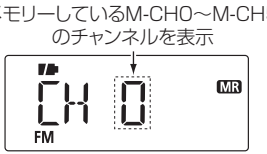
FREq(周波数表示)選択時

- **FREq**: 周波数を表示します。(初期設定)
- **CH** :メモリーしているすべてのチャンネル番号だけを表示し、チャンネル表示モードになります。
CHの切替は、エンドレス動作になります。
[操作できる機能]
スキャン機能(☞P41)、送信出力の設定(☞P19)、モニター機能(☞P15)、ロック機能(☞P20)、DTMFメモリーの送出(☞P66、P67)、SETモードの設定(☞P49)
※SETモードで設定できる内容は、**「PAUSE」**、**「RESUmE」**、**「dtmF」***、**「mic G」**、**「VOX LV」**です。*編集は不可
- **PRIV** :CH0～CH5だけを表示し、プライベートチャンネルモードになります。
CHの切替は、エッジストップ動作になります。
[操作できる機能]
送信出力の設定(☞P19)、モニター機能(☞P15)、ロック機能(☞P20)、DTMFメモリーの送出(☞P66、P67)

⑥ **[⏻]**を押して、イニシャルSETモードを解除すると、選択したモードを表示します。



チャンネル表示モード
選択時の画面



プライベートチャンネルモード
選択時の画面

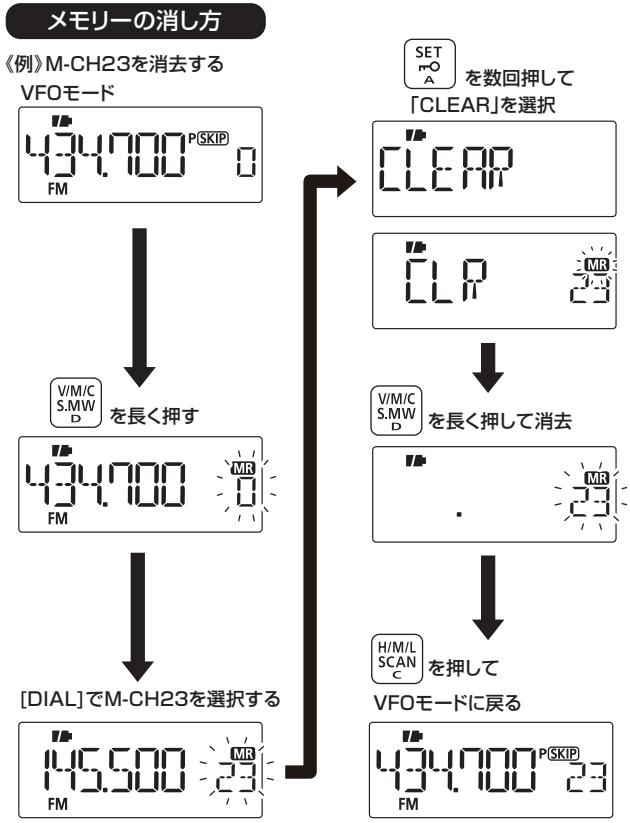
■ メモリークリア(消去)のしかた

不要になったM-CHとPROGRAM-CHを消去します。
いったん消去したM-CHとPROGRAM-CHの内容は、復活できないのでご注意ください。
なお、すべてのPROGRAM-CHを消去するとプログラムスキャンができません。

◇ メモリー内容を消去する

① [V/M/C]を数回押して、VFOモード/メモリーモード/CALL-CHモードのいずれかにします。
② [S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライトの状態にします。
●メモリー表示部が点滅します。
③ [DIAL]を回して、消去したいM-CHを選びます。
④ [SET]を数回押して、「CLEAR」項目を選択します。
⑤ [S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、メモリー内容を消去します。
●消去すると、ブランク(空白)表示になります。
⑥ [H/M/L]を押すと、①で設定したモード表示に戻ります。

※CALL-CHモード時(☞P27)も同様の手順で、メモリークリアの操作ができます。



7 スキャンのしかた

■ スキャンについて

スキャンとは、周波数やメモリーチャンネル(M-CH)を自動で切り替えて、信号の出ているところを探し出す機能です。

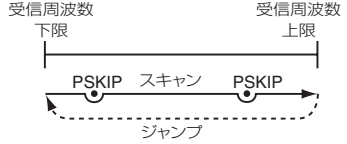
◇ 各モードのスキャンについて

- **VFOモードのとき**
  スキップする周波数は、**「PSKIP」**を指定します。
  (☞P41)
  プログラムスキャン用チャンネルは、異なる周波数を設定して、2CH以上書き込んでください。(☞P28)
  ※設定していないと、プログラムスキャンは動作しません。

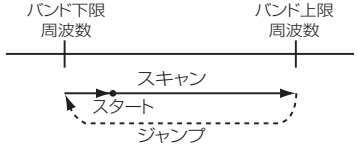
- **メモリーモードのとき**
  「PSKIP」または**「SKIP」**が指定されたM-CHはスキップします。(☞P43)
  M-CHは2CH以上書き込んでください。
  ※設定していないと、メモリースキャンは動作しません。

◇ VFOスキャン(☞P40)

- **ALL**(フルスキャン)
  すべての受信周波数範囲をスキャンします。



- **bAnd**(バンドスキャン)
  表示している運用バンドの周波数範囲をスキャンします。



- **PROG 0~24**(プログラムスキャン)
  プログラムスキャン用チャンネル(PROGRAM-CH)に書き込んだ周波数範囲をスキャンします。

- **P-LInk0~9**(プログラムリンクスキャン)
  SETモードの**「P-LInk」(プログラムスキャンのリンク設定)**(☞P55、P56)で指定したプログラムスキャンを連続してスキャンします。

◇ メモリースキャン(☞P41、P42)

- **ALL**(フルメモリースキャン)
  すべてのM-CHをスキャンします。
- **bAnd**(バンドメモリースキャン)
  表示している運用バンドの周波数を書き込んでいるM-CHをスキャンします。

◇ メモリーバンクスキャン(☞P42、P43)

- **ALL**(フルバンクスキャン)
  すべてのバンクをスキャンします。
- **bAnk-A～Z**(バンクスキャン)
  指定したバンクのM-CHをスキャンします。
- **b-LInk**(バンクリンクスキャン)
  SETモードの**「b-LInk」(バンクのリンク設定)**(☞P54)で指定したバンクを連続してスキャンします。

◇ デュプレックススキャン

VFOモードまたはメモリーモードで、デュプレックス運用(☞P23、P24)のとき、その周波数(送信/受信の2波)をスキャンできます。

※デュプレックススキャン中は、**「DUP－」**または**「DUP」**表示が点滅します。

※オフセット周波数が「0.000MHz」のときは動作しません。

◇ スケルチの調整

通常スケルチレベルは**「Auto」**にしていますが、受信信号の強さに応じて、スキャンが一時停止するように調整できます。

- スキャン動作中に**[MONI](BAND)**を押しながら**[DIAL]**を回すと、スケルチレベルの調整ができます。(☞P15)
  スケルチ調整が終わるとスキャンが再スタートします。

◇ スキャン中の[DIAL]操作について

- スキャンをスタートするとアップスキャンを開始しますが、スキャン中に**[DIAL]**を回すと、回した方向でアップスキャンとダウンスキャンを切り替えます。
- 信号を受信してスキャンを一時停止しているときに、**[DIAL]**を回すと即時再スタートします。

◇ スキャン中のステップについて

スキャン中に周波数を切り替えるステップ幅は、バンドごとに設定しているチューニングステップ(☞P17)で動作します。

◇ スキップ機能について

すべてのスキャンでスキップ(必要のないM-CHをスキャンから除外する)指定ができます。(☞P41、P43)

◇ 受信モード(電波型式)について

- VFOスキャン時は、VFOモードで設定している電波型式で動作します。
- メモリー/バンクスキャン時は、メモリーされている電波型式で動作します。

◇ 信号を受信すると

- 約10秒(初期設定値)経過すると、自動的に再スタートします。
  また、途中で信号がなくなると、約2秒(初期設定値)後に再スタートします。
- 上記のタイマーは、SETモードの**「PAUSE」(スキャン一時停止タイマーの設定)**(☞P53)、**「RESUmE」(スキャン再スタートタイマーの設定)**(☞P54)で変更できます。

◇ スキャンネームについて

- PROGRAM-CH(＊＊A/＊＊B)ごとに、スキャンネームを登録できます。(☞P33、P34)
  登録すると、スキャン範囲を選択するときにスキャンネームを表示します。(☞P40)
- スキャンネーム表示機能は、イニシャルSETモードの**「S nAmE」(スキャンネーム表示の設定)**(☞P64)で変更できます。

■ VFOモードのスキャン

VFOモードのスキャンには、フルスキャン、バンドスキャン、プログラムリンクスキャン、プログラムスキャン、デュプレックススキャンがあります。

※SETモードの**「P SkIP」(プログラムスキップの設定)**(☞P41)が**「On」**のとき、M-CHで**「PSKIP」**を指定している周波数は、スキップしてスキャンします。

◇ 工場出荷時のPROGRAM-CHについて

プログラムスキャンは、PROGRAM-CHの**「0A/0B」～「24A/24B」**に書き込んだ周波数範囲をスキャンします。工場出荷時、設定されているPROGRAM-CHの内容は、次のとおりです。

「0A」：144.000MHz　/**「0B」**：440.000MHz
「1A」：144.000MHz　/**「1B」**：146.000MHz
「2A」：430.000MHz　/**「2B」**：440.000MHz

※**「3A/3B～24A/24B」**は工場出荷時、何も記憶されていません。
PROGRAM-CHへの書き込みについては28ページを参照してください。

◇ VFOスキャンの操作

① [V/M/C]を数回押して、VFOモードにします。
② [SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
③ [DIAL]を回して、スキャン範囲を選択します。

- ●ALL　：フルスキャン
- ●bAnd　：バンドスキャン
- ●P-LInk0～9　：プログラムリンクスキャン
  (リンク設定☞P55)
- ●PROG 0～24　：プログラムスキャン
- ●dUP　：デュプレックススキャン
  (デュプレックス設定時のみ)
- ●tOnE　：トーンスキャン(IC-S70のみ)

フルスキャンの選択

バンドスキャンの選択

プログラムリンクスキャンの選択

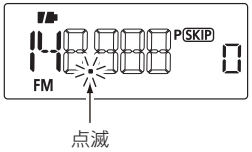
プログラムスキャンの選択

デュプレックススキャンの選択
(デュプレックス設定時のみ)

トーンスキャンの選択
(IC-S70のみ)

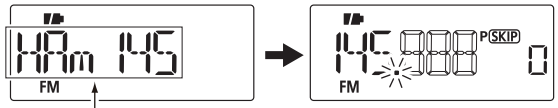
④ [SCAN](H/M/L)を押すと、スキャンを開始します。
※スキャン中に[BAND]を押すと、バンドまたはプログラムスキャン範囲を切り替えます。
※スキャン中に[DIAL]を回すとアップスキャン/ダウンスキャンを切り替えます。
※[SCAN](H/M/L)を押しながら、[DIAL]を回しても選択でき、はなすとスキャンを開始します。
⑤ [SCAN](H/M/L)、または[V/M/C]を押すと、スキャン動作を解除します。

VFOスキャン中の表示



点滅

【スキャンネームで選択したとき】
スキャンネームを書き込むと、プログラムスキャンの選択時にスキャンネームを表示します。



スキャンネーム表示　　スキャン中の表示

※プログラムスキャン中、スキャンネームは表示しません。

◇ VFOモードのPSKIP設定

VFOスキャン時に、メモリーで登録したスキップ周波数をスキップするかしないかを設定します。

① [SET]を押してSETモードに入り、[DIAL]を回して「PSkIP」(**プログラムスキップの設定**)を選択します。
② [VOL]を回して、「On」を選択します。
- ●On ：「PSKIP」が点灯し、VFOスキャン時に、メモリーで登録したスキップ周波数をスキップします。(初期設定)
- ●OFF：「PSKIP」が消灯し、VFOスキャン時に、メモリーで登録したスキップ周波数をスキップしません。

③ [V/M/C]を押して、SETモードを解除します。

PSKIP表示

■ メモリーモードのスキャン

メモリーモードのスキャンは大きく分けて、**「メモリースキャン」**と**「メモリーバンクスキャン」**があります。

※「SKIP」または「PSKIP」を指定しているM-CHは、スキップしてスキャンします。
※ M-CHは2CH以上書き込んでください。

◇ メモリースキャンの操作

メモリースキャンは、周波数を記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出す機能です。

① [V/M/C]を数回押して、メモリーモードにします。
② [SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
③ [DIAL]を回して、スキャン範囲を選択します。
- ●ALL　：フルメモリースキャン
- ●bAnd　：バンドメモリースキャン
- ●dUP　：デュプレックススキャン(デュプレックス設定時のみ)
- ●tOnE　：トーンメモリースキャン(IC-S70のみ)

フルメモリースキャンの選択

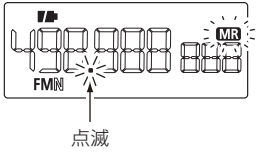
バンドメモリースキャンの選択

デュプレックススキャンの選択
(デュプレックス設定時のみ)

トーンメモリースキャンの選択
(IC-S70のみ)

④ [SCAN](H/M/L)を押すと、スキャンを開始します。
※スキャン中に[DIAL]を回すとアップスキャン/ダウンスキャンを切り替えます。
※[SCAN](H/M/L)を押しながら、[DIAL]を回しても選択でき、はなすとスキャンを開始します。

メモリースキャン中の表示



点滅

⑤ [SCAN](H/M/L)、または[V/M/C]を押すと、スキャン動作を解除します。

◇ メモリーバンクスキャンの操作

メモリーバンクスキャンは、メモリーバンクに記憶しているM-CHを順次切り替えて、信号を探し出す機能です。

① [V/M/C]を数回押して、メモリーモードにします。
② [BAND]を押します。
●メモリーバンク選択状態になります。
③ [DIAL]を回して、スキャンしたいバンクを選択します。
④ [BAND]を押します。
⑤ [SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
⑥ [DIAL]を回して、スキャン範囲を選択します。

- ●ALL　：フルバンクスキャン
- ●b-LInk　：バンクリンクスキャン(リンク設定☞P54)
- ●bAnk-A～Z　：バンクスキャン
- ●dUP　：デュプレックススキャン（デュプレックス設定時のみ）
- ●tOnE　：トーンメモリースキャン(IC-S70のみ表示)

フルバンクスキャンの選択

バンクリンクスキャンの選択

バンクスキャンの選択

デュプレックススキャンの選択

トーンメモリースキャンの選択
(IC-S70のみ表示)

◇メモリーバンクスキャンの操作　(つづき)

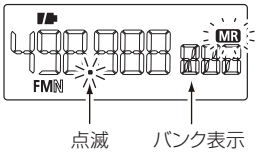
⑦ [SCAN](H/M/L)を押すと、スキャンを開始します。

※バンクスキャン中に[BAND]を押すと、バンクを切り替えます。

※スキャン中に[DIAL]を回すとアップスキャン/ダウンスキャンを切り替えます。

※[SCAN](H/M/L)を押しながら、[DIAL]を回しても選択でき、はなすとスキャンを開始します。

メモリーバンクスキャン中の表示



⑧ [SCAN](H/M/L)、または[V/M/C]を押すと、スキャン動作を解除します。

【ご注意】

- 編集したバンクのすべてのチャンネルに「SKIP」または「PSKIP」が指定されている場合、そのバンクはスキップされます。
- 指定したバンクのすべてに「SKIP」または「PSKIP」が指定されている場合は、最初のチャンネルでスキャンは停止します。

■ スキップチャンネルの指定と解除のしかた

◇ スキップチャンネルの指定と解除

メモリースキャン時に、スキャンの対象からはずしたいチャンネルを飛び越す(スキップ)ように指定します。

① [V/M/C]を押して、メモリーモードにします。

② [DIAL]を回して、スキップするCH、またはスキップを解除するCHを選択します。

③ [S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、セレクトメモリーライトの状態にします。

●メモリー表示部が点滅します。

④ [SET]を数回押して、「SkIP」項目を選択します。

⑤ [DIAL]を回して、スキップ項目「OFF(消灯)」→「SkIP」→「PSkIP」を選択します。

⑥ [S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピピと鳴るまで)押すと、スキップ表示が点灯します。

●SkIP　：指定したM-CHをスキップします。

●PSkIP　：指定したM-CHをスキップします。

※VFOスキャン時は、指定したM-CHの周波数をスキップします。

●OFF　：指定したM-CHは、スキップを解除してスキャンの対象になります。

スキップ設定

SKIP表示

プログラムスキップ設定

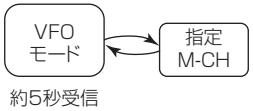
PSKIP表示

■ プライオリティースキャンについて

プライオリティースキャンは、通常の受信をしながら特定の周波数/M-CH(プライオリティーCH)信号の有無を確認できる機能です。

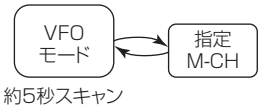
◇ VFO周波数とM-CH(☞P45)

VFO周波数を受信しながら、指定M-CH/バンクCH/CALL-CHを受信(監視)します。



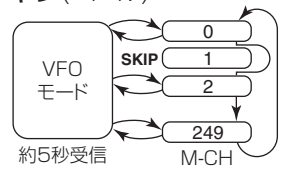
◇ VFOスキャンとM-CH(☞P46)

VFOスキャンをしながら、指定M-CH/バンクCH/CALL-CHを受信(監視)します。



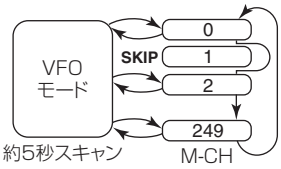
◇ VFO周波数とメモリースキャン(☞P47)

VFO周波数を受信しながら、スキャン中のM-CHまたはバンクチャンネルを順番に受信(監視)します。



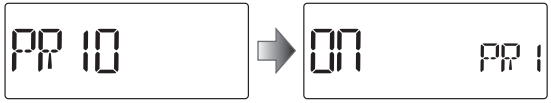
◇ VFOスキャンとメモリースキャン(☞P48)

VFOスキャンをしながら、スキャン中のM-CHまたはバンクチャンネルを順番に受信(監視)します。



◇ プライオリティースキャン機能の使いかた

① [SET]を押して、SETモードに入ります。
② [DIAL]を回して、「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)を選択します。
③ [VOL]を回して、「On」または「bELL」を選択します。
- ●OFF　：動作をしません。(初期設定)
- ●On　：信号を受信すると、スキャンが一時停止する、プライオリティースキャン動作になります。
- ●bELL　：信号を受信すると、"ピロピロピ"とベル音を鳴らして「((•)) 」(ベルマーク表示)が点滅する、プライオリティースキャン動作になります。



プライオリティースキャンの設定　　On選択時

④ [V/M/C]を押して、SETモードを解除します。
- ●「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。

※一時停止の時間および再スタートの条件は、ほかのスキャンと同じです。(☞P53、P54)

[PRIO]点灯

⑤ [V/M/C]を押すと、プライオリティースキャンを解除します。

8　プライオリティースキャンのしかた

■ VFO周波数とM-CH

VFO周波数を受信しながら、特定のM-CH、CALL-CH、またはバンクチャンネルを約5秒に1回受信します。

① VFOモードで受信する周波数を設定します。(☞P16)
② **[V/M/C]**を数回押して、メモリーモード、またはCALL-CHモードにします。
※メモリーモードにしたあと**[BAND]**を押すと、メモリーバンクモードに切り替えます。
③ **[DIAL]**で、受信したいM-CH/CALL-CHを指定します。
※メモリーバンクモード時は、**[DIAL]**を回して受信したいバンクを指定し、**[BAND]**を押します。そして、**[DIAL]**を回してバンクチャンネルを指定します。

メモリーモード表示

メモリーバンクモード表示

④ **[SET]**を押して、SETモードに入り、**[DIAL]**を回して、**「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)**を選択します。
⑤ **[VOL]**を回して、**「ON」**を選択し、**[V/M/C]**を押します。
●**「PRIO」**表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。
⑥ **[V/M/C]**を押すと、プライオリティースキャンを解除します。

〈プライオリティースキャン動作〉

● **On選択時**
M-CH/CALL-CH/バンクチャンネルの信号を受信すると、その画面で一時停止します。

M-CHを受信すると**「PRIO」**が点滅

● **bELL選択時**
M-CH/CALL-CH/バンクチャンネルの信号を受信すると、ベル音を鳴らしてVFO画面で**「((•)) 」**(ベルマーク表示)が点滅します。

約5秒VFO周波数受信

5秒に1回 M-CHを受信

【ご参考】
M-CH、CALL-CHまたはバンクチャンネルを指定してから、VFO周波数を設定しても同様に動作します。

■ VFOスキャンとM-CH

VFOスキャンをしながら、特定のM-CH、CALL-CHまたはバンクチャンネルを約5秒に1回受信します。

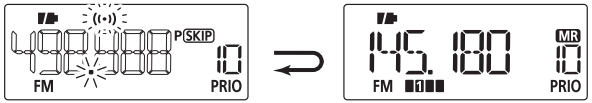
① [V/M/C]を数回押して、メモリーモード、またはCALL-CHモードにします。
※メモリーモードにしたあと[BAND]を押すと、メモリーバンクモードに切り替えます。
② [DIAL]で、受信したいM-CH/CALL-CHを指定します。
※メモリーバンクモード時は、[DIAL]を回して受信したいバンクを指定し、[BAND]を押します。そして、[DIAL]を回してバンクチャンネルを指定します。
③ [V/M/C]を数回押して、VFOモードにします。
④ [SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
⑤ [DIAL]を回して、スキャン範囲を選択します。(☞P40)
⑥ [SCAN](H/M/L)を押すと、VFOスキャンを開始します。
⑦ [SET]を押して、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)を選択します。
⑧ [VOL]を回して、「On」を選択し、[V/M/C]を押します。
●「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。
⑨ [V/M/C]を押すと、プライオリティースキャンとVFOスキャンを解除します。

〈プライオリティースキャン動作〉

● On選択時
M-CH/CALL-CH/バンクチャンネルの信号を受信すると、その画面で一時停止します。

M-CHを受信すると「PRIO」が点滅

● bELL選択時
M-CH/CALL-CH/バンクチャンネルの信号を受信すると、ベル音を鳴らしてVFO画面で「((•)) 」(ベルマーク表示)が点滅します。



約5秒VFOスキャン　5秒に1回 M-CHを受信

8　プライオリティースキャンのしかた

■ VFO周波数とメモリースキャン

VFO周波数を受信しながら、特定のM-CHまたはバンクチャンネルを約5秒に1回順番に受信します。

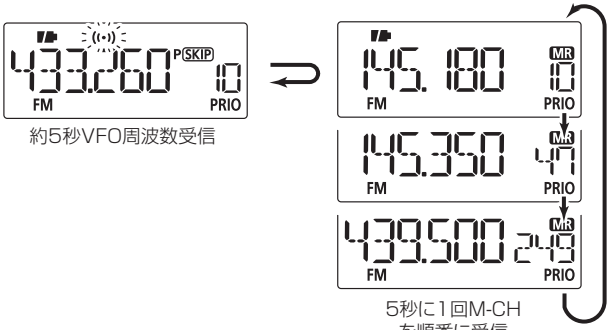
① VFOモードで受信する周波数を設定します。(☞P16)
② [V/M/C]を数回押して、メモリーモードにします。
　※メモリーモードにしたあと[BAND]を押すと、メモリーバンクモードに切り替え、[DIAL]を回して受信したいバンクを指定し、[BAND]を押します。
③ [SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
④ [DIAL]を回して、メモリースキャンのスキャン範囲を指定します。(☞P41、P42)
　※またはメモリーバンクスキャンのスキャン範囲を指定します。(☞P42、P43)
⑤ [SCAN](H/M/L)を押すと、メモリースキャンまたはメモリーバンクスキャンを開始します。
⑥ [SET]を押して、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)を選択します。
⑦ [VOL]を回して、「On」を選択し、[V/M/C]を押します。
　●「PRIO」表示が点灯して、プライオリティースキャンを開始します。
⑧ [V/M/C]を押すと、プライオリティースキャンとメモリースキャンを解除します。

〈プライオリティースキャン動作〉

● On選択時
M-CH/バンクチャンネルの信号を受信すると、その画面で一時停止します。

M-CHを受信すると「PRIO」が点滅

● bELL選択時
M-CH/バンクチャンネルの信号を受信すると、ベル音を鳴らしてVFO画面で「((•)) 」(ベルマーク表示)が点滅します。



約5秒VFO周波数受信
5秒に1回M-CHを順番に受信

■ VFOスキャンとメモリースキャン

VFOスキャンをしながら、特定のM-CHまたはバンクチャンネルを約5秒に1回受信します。

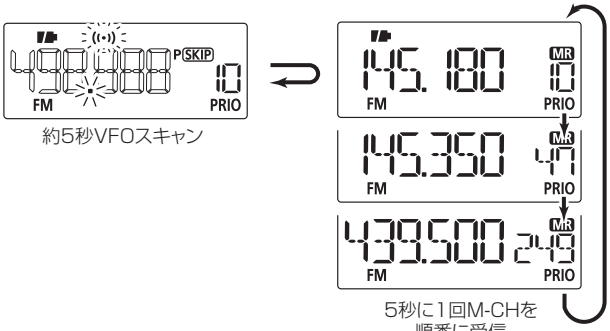
① [V/M/C]を押して、メモリーモードにします。
※メモリーモードにしたあと[BAND]を押すと、メモリーバンクモードに切り替え、[DIAL]を回して受信したいバンクを指定し、[BAND]を押します。
② [SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
③ [DIAL]を回して、メモリースキャンのスキャン範囲を選択します。(☞P41、P42)
※またはメモリーバンクスキャンのスキャン範囲を選択します。(☞P42、P43)
④ [SCAN](H/M/L)を押すと、メモリースキャンまたはメモリーバンクスキャンを開始します。
⑤ [SET]を押して、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「PRIO」(プライオリティースキャンの設定)を選択します。
⑥ [VOL]を回して、「On」を選択し、[V/M/C]を押します。
●「PRIO」表示が点灯します。
⑦ [SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
⑧ [DIAL]を回して、VFOモードのスキャン範囲を選択します。(☞P40)
⑨ [SCAN](H/M/L)を押します。
●VFOスキャンとメモリースキャンによる、プライオリティースキャンを開始します。
⑩ [V/M/C]を押すと、VFOスキャンとメモリースキャンによる、プライオリティースキャンを解除します。

〈プライオリティースキャン動作〉

● On選択時
M-CH/バンクチャンネルの信号を受信すると、その画面で一時停止します。

M-CHを受信すると「PRIO」が点滅

● bELL選択時
M-CH/バンクチャンネルの信号を受信すると、ベル音を鳴らしてVFO画面で「((•)) 」(ベルマーク表示)が点滅します。



約5秒VFOスキャン

5秒に1回M-CHを順番に受信

【ご注意】
最初にメモリースキャン(バンクスキャン)を開始してください。
※VFOスキャンを最初に開始すると、両スキャンは動作できません。

9 SETモード・イニシャルSETモード

■ SETモードの選択方法

SETモードでは、初期設定されている運用条件を運用する状況やお好みの使いかたに応じて変更できます。
各設定内容で変更できる運用条件を次のページから記載していますので、このページと併せてご覧ください。

◇ 設定内容を変更する

《例》チューニングステップの設定を20kHzに設定する

① [SET]を押します。

② [DIAL]を回して、「tS」(チューニングステップの設定)を選択します。

③ [VOL]を回して、「20.0」を選択します。

④ [V/M/C]を押すと、SETモードを解除します。

【SETモードの項目一覧表の「*」マークについて】
※バンドごとに設定できます。
※すべてのM-CHに独立して設定を記憶できます。

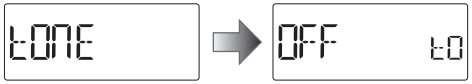
■ SETモードの項目一覧表

項目	項目名称	ページ
tOnE	TONE/DTCSの設定(IC-S70のみ)*	P50
R tOnE	レピータトーン周波数の設定*	P50
C tOnE	CTCSSトーン周波数の設定*	P50
codE	DTCSコードの設定*	P51
dtCS P	DTCS位相反転機能の設定*	P51
tS	チューニングステップの設定*	P51
dUP	デュプレックスの設定(IC-S70のみ)*	P52
OFFSEt	オフセット周波数の設定*	P52
dUP.REV	DUPリバース設定*	P52
modE	受信モードの設定*	P53
PRIO	プライオリティースキャンの設定	P53
PAUSE	スキャン一時停止タイマーの設定	P53
RESUmE	スキャン再スタートタイマーの設定	P54
P SkIP	プログラムスキップの設定	P54
b-LInk	バンクのリンク設定	P54
P-LInk	プログラムスキャンのリンク設定	P55、P56
dtmF-t	DTMF送信キーの設定	P56
dtmF	DTMFメモリー編集設定	P57
mic G	MICゲインの設定	P57
VOX	VOX機能の設定	P57
VOX LV	VOX感度の設定	P57
VOX.dLy	VOXディレイの設定	P58
VOX.tot	VOXタイムアウトタイマーの設定	P58

◇ TONE/DTCSの設定(IC-S70のみ)

レピータ用トーン(トーンエンコーダー)やトーンスケルチ(CTCSSトーン)を使用したトーン運用モードを設定します。

- tOnE
  - OFF　:トーンを使用しない(初期設定)
  - tOnE　:レピータトーン運用モードにする
  - P bEEP　:ポケットビープ運用モードにする
  - tSqL　:トーンスケルチ運用モードにする
  - P dtCS　:ポケットDTCSコード運用モードにする
  - dtCS　:DTCSコード運用モードにする
  - tSqL R　:逆トーンスケルチ運用モードにする
  - dtCS R　:逆DTCSコード運用モードにする

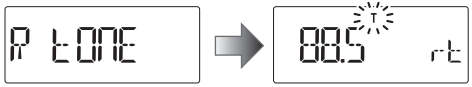


TONE/DTCSの設定　　OFFに設定

◇ レピータトーン周波数の設定

レピータ運用などで使用するレピータトーン(トーンエンコーダー)周波数を設定します。

- R tOnE
  67.0Hz～254.1Hz(50波)の中から選択します。
  (初期設定値 88.5Hz)

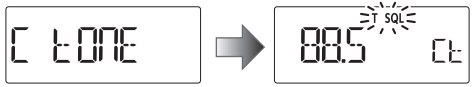


レピータトーン周波数の設定　　88.5Hzに設定

◇ CTCSSトーン周波数の設定

トーンスケルチ運用で使用するトーンエンコーダー/デコーダーに使用する周波数を設定します。

- C tOnE
  67.0Hz～254.1Hz(50波)の中から選択します。
  (初期設定値 88.5Hz)



CTCSSトーン周波数の設定　　88.5Hzに設定

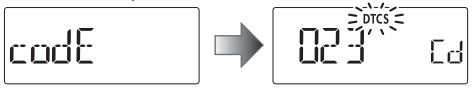
レピータトーン/CTCSSトーン周波数の一覧　　(単位 : Hz)

67.0	88.5	114.8	151.4	177.3	203.5	250.3
69.3	91.5	118.8	156.7	179.9	206.5	254.1
71.9	94.8	123.0	159.8	183.5	210.7	
74.4	97.4	127.3	162.2	186.2	218.1	
77.0	100.0	131.8	165.5	189.9	225.7	
79.7	103.5	136.5	167.9	192.8	229.1	
82.5	107.2	141.3	171.3	196.6	233.6	
85.4	110.9	146.2	173.8	199.5	241.8	

◇ DTCSコードの設定

DTCSスケルチ運用で使用するDTCSエンコーダー/デコーダーのコードを設定します。

- codE
  023～754(104コード)の中から選択します。
  (初期設定値 023)



DTCSコードの設定　　023に設定

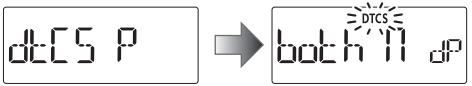
DTCSコードの一覧

023	072	152	244	311	412	466	631
025	073	155	245	315	413	503	632
026	074	156	246	325	423	506	654
031	114	162	251	331	431	516	662
032	115	165	252	332	432	523	664
036	116	172	255	343	445	526	703
043	122	174	261	346	446	532	712
047	125	205	263	351	452	546	723
051	131	212	265	356	454	565	731
053	132	223	266	364	455	606	732
054	134	225	271	365	462	612	734
065	143	226	274	371	464	624	743
071	145	243	306	411	465	627	754

◇ DTCS位相反転機能の設定

送信側、受信側それぞれの組み合わせで、コードの送出または検出の位相を設定します。

- dtCS P
  both n　：送信/受信とも反転しません。(初期設定)
  tn-RR　：送信側は反転しないで、受信側は反転します。
  tR-Rn　：送信側を反転して、受信側は反転しません。
  both R　：送信/受信とも反転します。

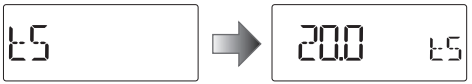


DTCS位相反転機能の設定　　both nに設定

◇ チューニングステップの設定

[DIAL]で周波数を設定するときや、スキャン中に周波数が自動で切り替わるときに、変化する周波数の幅を設定します。

- tS
  5.0/10.0/12.5/15.0/20.0/25.0/30.0/50.0/100.0/125.0/200.0kHzの中から選択します。
  (初期設定値 20.0kHz)

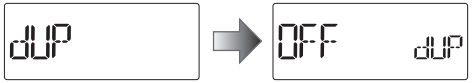


チューニングステップの設定　　20.0kHzに設定

◇ デュプレックスの設定(IC-S70のみ)

送信と受信の周波数をずらして交信するとき(デュプレックス運用)に設定します。

- dUP
  - OFF　：デュプレックス運用しません。(初期設定)
  - −　：送信周波数を受信周波数よりも低くします。
  - +　：送信周波数を受信周波数よりも高くします。



デュプレックスの設定　　OFFに設定

◇ オフセット周波数の設定

レピータ運用やデュプレックス運用時に使用するシフト幅を設定します。

- OFFSEt

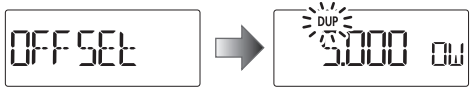
  0.000～59.995MHzの範囲で設定できます。

  アマチュアバンドの初期設定値

  0.000MHz (144MHz帯)

  5.000MHz (430MHz帯)

  ※設定しているチューニングステップ(☞P17)にしたがって、シフト幅が切り替わります。

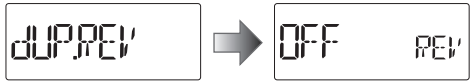


オフセット周波数の設定　　5.000MHzに設定

◇ デュプレックス反転の設定

デュプレックス運用で、送信周波数と受信周波数を入れ替えるときに設定します。

- dUP.REV
  - OFF　：周波数を入れ替えません。(初期設定)
  - On　：周波数を入れ替えます。



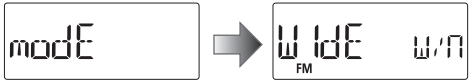
デュプレックス反転の設定　　OFFに設定

9 SET モード・イニシャル SET モード

◇ 受信モードの設定

受信モード(電波型式)を設定します。

- modE
  - WIdE　：FM(ワイド)モードにします。(初期設定)
  - nARROW：FMナローモードにします。
    FMナローモードは、送信DEV.(変調度)/受信通過帯域幅を狭く(約2.5kHz)設定します。

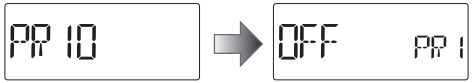


受信モードの設定　　FM(ワイド)モードに設定

◇ プライオリティースキャンの設定

プライオリティースキャンの「On/OFF」、およびプライオリティーベルを設定します。

- PRIO
  - OFF　：動作しません。(初期設定)
  - On　：プライオリティースキャンを設定します。
  - bELL　：プライオリティーチャンネルで信号を受信すると、ベル音を鳴らし、「((•)) 」(ベルマーク表示)の点滅で受信を知らせます。

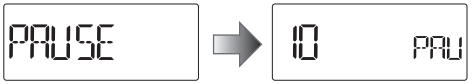


プライオリティースキャンの設定　　OFFに設定

◇ スキャン一時停止タイマーの設定

スキャン中に信号を受信すると、スキャンは一時停止します。
設定時間だけ受信をつづけ、設定時間を過ぎると再スタートします。

- PAUSE
  - 2〜20　：信号を受信すると、2秒〜20秒の範囲で2秒ごとに一時停止時間を設定できます。
    なお、一時停止中に信号がなくなると、「スキャン再スタートタイマーの設定」の条件で再スタートします。(初期設定値 10秒)
  - HOLd　：信号を受信しているあいだは、一時停止をつづけ、信号がなくなると、「スキャン再スタートタイマーの設定」の条件で再スタートします。

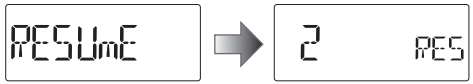


スキャン一時停止タイマー設定　　10秒に設定

◇ スキャン再スタートタイマーの設定

スキャンが一時停止したあと、受信信号がなくなり、スキャンが再スタートする条件(時間)を設定します。

- RESUmE
  - 0　：信号がなくなると同時に再スタートします。
  - 1～5　：信号がなくなると1秒～5秒の各設定時間後、再スタートします。(初期設定値 2秒)
  - HOLd　：信号がなくなっても一時停止状態を保持します。
    ※再スタートするとき、
    スキャン時は[DIAL]操作、プライオリティースキャン時は[V/M/C]を押します。
    ※「PAUSE」(スキャン一時停止タイマーの設定)が2秒～20秒の場合、スキャン一時停止タイマーを優先して再スタートします。

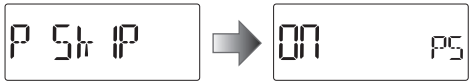


スキャン再スタートタイマーの設定　　2秒に設定

◇ プログラムスキップの設定

プログラムスキップの「On/OFF」を設定する項目です。

- P SkIP
  - OFF　：プログラムスキップを設定しません。
  - On　：プログラムスキップを設定します。(初期設定)



プログラムスキップの設定　　Onに設定

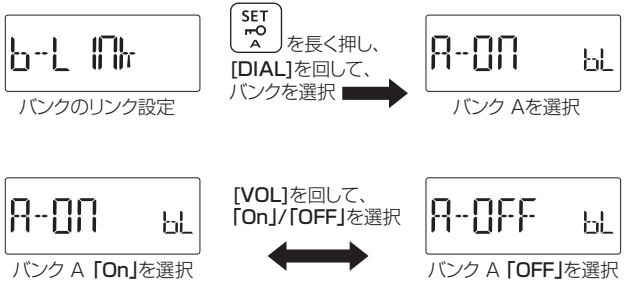
◇ バンクのリンク設定

バンクリンクスキャンで、リンクするバンクを選択します。

- b-LInk
  バンクA～バンクZの中から選択します。
  ※[SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、[DIAL]を回してバンクを選択します。
  [VOL]を回すと、リンク機能を「On/OFF」します。
  [BAND]を押すと、「b-LInk」画面に戻ります。

〈リンクの選択〉

- OFF　：選択したバンクをリンクしません。
- On　：選択したバンクをリンクします。(初期設定)



バンクのリンク設定　　バンク Aを選択

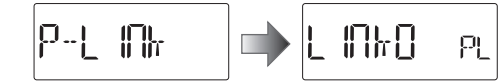
バンク A「On」を選択　　バンク A「OFF」を選択

9 SET モード・イニシャル SET モード

◇ プログラムスキャンのリンク設定

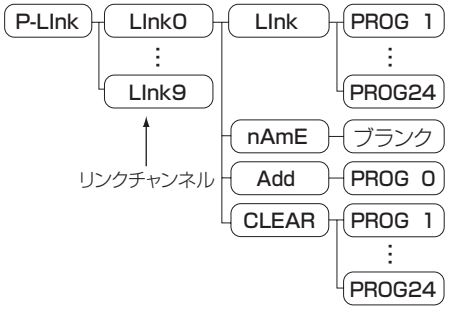
プログラムリンクスキャンで、複数のプログラムスキャン(PROG 0～PROG24)をリンクに設定します。
工場出荷時の状態で、すべてのリンクチャンネル(LInk0～LInk9)に、**「PROG 0」**以外のプログラムスキャン(PROG 1～PROG24)をリンク設定しています。

- **P-LInk**
  LInk0～LInk9の中から選択します。



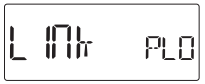
プログラムスキャンのリンク設定　　LInk0を選択

工場出荷時のP-LInkの階層

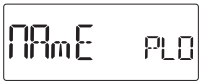


〈リンク設定のしかた〉

① **[VOL]**でリンクチャンネル(LInk0～LInk9)を選択後、**[SET]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
② **[DIAL]**を回して**「LInk」**、**「nAmE」**、**「Add」**、**「CLEAR」**を選択し、**[SET]**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。



LInkを選択



nAmEを選択

Addを選択

CLEARを選択

LInk　：リンクされているプログラムスキャンを表示します。
[DIAL]を回すとプログラムスキャンを確認でき、**[BAND]**を押すとLInk画面に戻ります。

nAmE　：リンクチャンネルのネームを入力します。
[DIAL]を回すと文字を選択でき、**[BAND]**を押すとカーソルが右に移動し、**[SET]**を押すとカーソルが左に移動します。
[BAND]を数回押すと、nAmE画面に戻ります。
※ネームは6文字まで入力できます。
(使用可能文字一覧：☞P33)

Add　：プログラムスキャンを追加します。
[DIAL]を回してプログラムスキャンを選択します。
[SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、選択したプログラムスキャンを追加し、Add画面に戻ります。
※選択中に[BAND]を押すと、Add画面に戻ります。

CLEAR：プログラムスキャンをリンクから解除します。
[DIAL]を回してプログラムスキャンを選択します。
[SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと選択したプログラムスキャンをリンクから解除し、CLEAR画面に戻ります。
※選択中に[BAND]を押すと、CLEAR画面に戻ります。

③ [BAND]を押し、[DIAL]を回して設定を保存します。
④ [V/M/C]を押すと、SETモードを解除します。

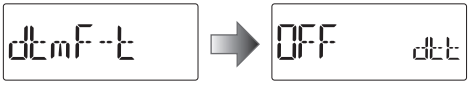
◇ DTMF送信キーの設定

[PTT]を押しながらキーを押したときに送出されるDTMFコードを選択します。

● dtmF-t

(IC-S70の場合)

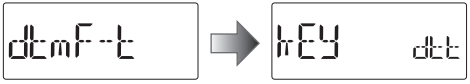
OFF　：DTMFを送出しません。(初期設定)
mEm　：DTMFメモリー編集設定(☞P57)で設定した、DTMFメモリーの内容を送出します。
t-CALL：1750Hzのトーン周波数を送出します。



DTMF送出キーの設定　OFFに設定

(IC-T70の場合)

kEy　：[0]～[9]、[A](SET)、[B](BAND)、[C](H/M/L)、[D](V/M/C)、[*]、[#]それぞれのコードを送出します。(初期設定)
mEm　：[0]～[9]、[A](SET)、[B](BAND)、[C](H/M/L)、[D](V/M/C)、[*]、[#]に対応したDTMFメモリーの内容を送出します。
t-CALL：1750Hzのトーン周波数を送出します。

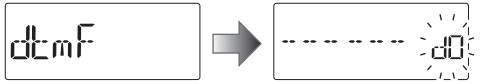


DTMF送出キーの設定　kEyに設定

◇ DTMFメモリー編集設定

DTMFメモリーに登録したいチャンネルを選択して、コード編集画面を表示します。

- dtmF
  dO ～ dFの中から選択します。
  ※DTMFメモリーチャンネルを選択後、[SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押してコード編集画面を表示します。(☞P65)

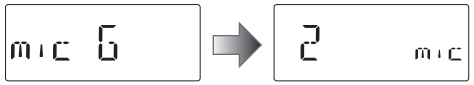


DTMFメモリー編集の設定　　dOに設定

◇ MICゲインの設定

マイクゲイン(感度)を4段階で設定します。

- mic G
  1～4の中から選択します。(初期設定値　2)



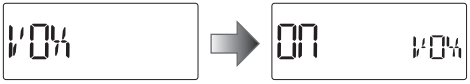
MICゲインの設定　　2に設定

【ご参考】
VOX機能使用時(☞P74)は、VOX感度を設定する前にMICゲインを「3」に設定することを推奨します。

◇ VOX機能の設定

「PTT」を押さなくても、ヘッドセット(別売品)からの音声によって送受信を自動的に切り替える、VOX機能を設定します。
通話をやめると受信に切り替わります。

- VOX
  OFF　：VOX機能を設定しません。
  On　：VOX機能を設定します。(初期設定)

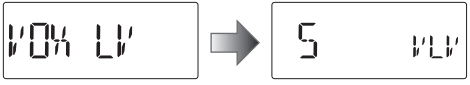


VOX機能の設定　　Onに設定

◇ VOX感度の設定

VOX感度をOFFと1～10の10段階から設定します。
感度を上げると、小さな声でも送信しますが、まわりの雑音でも送信しやすくなります。
また感度を下げると、大きな声で話さないと送信しませんが、まわりの雑音では送信しにくくなります。

- VOX LV
  OFF　：VOX機能が動作しません。
  1～10：1～10の中から選択します。(初期設定値　5)

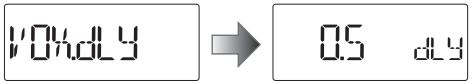


VOX感度の設定　　5に設定

◇ VOXディレイの設定

VOX機能使用時に、送信状態から受信状態に切り替わるまでの復帰時間を設定します。

- VOX.dLY
  0.5/1.0/1.5/2.0/2.5/3.0秒の中から選択します。
  (初期設定値　0.5秒)

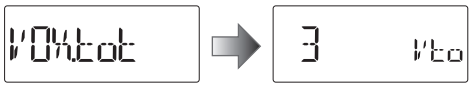


VOXディレイの設定　　0.5秒に設定

◇ VOXタイムアウトタイマーの設定

VOX機能使用時に、連続して送信できる時間を制限します。

- VOX.tot
  OFF　：送信時間を制限しません。
  1～15：1分、2分、3分、4分、5分、10分、15分の中から送信時間を制限します。(初期設定値　3分)
  ※**「TOT」(タイムアウトタイマーの設定)**で設定した送信制限時間のほうが短い場合、タイムアウトタイマーを優先します。



VOXタイムアウトタイマーの設定　　3分に設定

■ イニシャルSETモードの選択方法

イニシャルSETモードでは、初期設定されている運用条件を運用する状況やお好みの使いかたに応じて変更できます。
各設定内容で変更できる運用条件を次のページから記載していますので、このページと併せてご覧ください。

◇ 設定内容を変更する

《例》オートパワーオフ機能の設定を30分に設定する

① **[⏻]**を長く押し、電源を**"OFF"**にします。
② **[SET]**を押しながら、**[⏻]**を長く押して電源を**"ON"**にします。
　●イニシャルSETモードを表示します。
③ **[DIAL]**を回して、**「AP OFF」**(オートパワーオフ機能)を選択します。

④ **[VOL]**を回して、**「30」**を選択します。

⑤ **[⏻]**を押すと、イニシャルセットモードを解除し、運用画面を表示します。

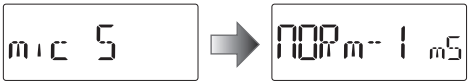
■ イニシャルSETモードの項目一覧表

項目	項目名称	ページ
mic S	シンプルマイク機能の設定	P59
AP OFF	オートパワーオフ機能の設定	P59
LIGHt	バックライトの設定	P60
bEEPLV	キー操作音の設定	P60
AutoRP	オートレピータ機能の設定	P60
P SAVE	パワーセーブ機能の設定	P61
VOLt	電源投入時電源電圧表示の設定	P61
dtmF-S	DTMFスピードの設定	P61
Cont	LCDコントラストの設定	P62
Ptt Lk	PTTロック機能の設定	P62
Lk Out	ビジーロックアウト機能の設定	P62
tot	タイムアウトタイマーの設定	P62
SqL dL	スケルチディレイの設定	P63
moni	モニター(SQL)機能の設定	P63
dIAL S	ダイヤルスピードの設定	P63
nAmE	メモリーネーム表示の設定	P63
S nAmE	スキャンネーム表示の設定	P64
dISP m	表示モードの設定	P64
HS SEL	ヘッドセット選択の設定	P64
AutoLP	オートLOWパワーの設定	P64

◇ シンプルマイク機能の設定

無線機の [SP]ジャックにリモコンユニットを接続して使用するとき、必要最小限のリモコン機能を設定します。(☞P75)

- mic S
  SImPLE、nORm-1(初期設定)、nORm-2の中から選択します。



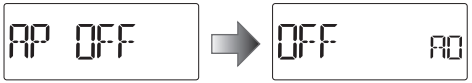
シンプルマイクの設定　　nORm-1に設定

◇ オートパワーオフ機能の設定

自動的に電源を“OFF”にするオートパワーオフ機能を設定します。何も操作しない状態が一定時間(下記の設定時間)つづくと、“ピー”音が5回鳴って電源が自動的に切れます。

- AP OFF
  OFF　　：オートパワーオフ機能が動作しません。(初期設定)
  30～120：30分後、60分後、90分後、120分後に電源が切れます。

※オートパワーオフ機能が設定されていると、電源を入れるたびにオートパワーオフ機能が動作します。

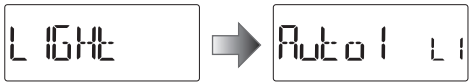


オートパワーオフ機能の設定　　OFFに設定

◇ バックライトの設定

キーや[DIAL]を操作したときに、ディスプレイの照明を点灯するか、しないかを設定します。

- LIGHt
  - OFF　：点灯しません。
  - On　：常時点灯します。
  - Auto1　：キーや[DIAL]を操作したときに、自動で点灯します。なお、約5秒操作しない状態がつづくと、消灯します。(初期設定)
  - Auto2　：「Auto1」の動作に加え、外部電源使用時は常時点灯します。

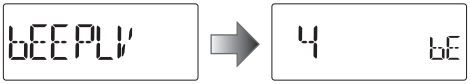


バックライトの設定　　Auto1に設定

◇ ビープレベルの設定

キーが正しく操作されたかどうかを知らせるビープ音の音量を設定します。

- bEEPLV
  - OFF　：ビープ音を鳴らしません。
  - 1～9　：すべてのビープ音は受信音量の設定に関係なく、ここで設定した音量で鳴ります。(初期設定値　4)

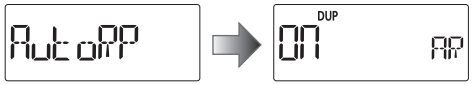


ビープレベルの設定　　4に設定

◇ オートレピータ機能の設定

レピータ運用をするための、シフト方向(－：マイナス)とトーンの“ON/OFF”を自動で設定するオートレピータ機能を設定します。

- AutoRP
  - OFF　：オートレピータ機能が動作しません。
  - On　：オートレピータ機能が動作します。(初期設定)



オートレピータ機能の設定　　Onに設定

9 SET モード・イニシャル SET モード

◇ パワーセーブ機能の設定

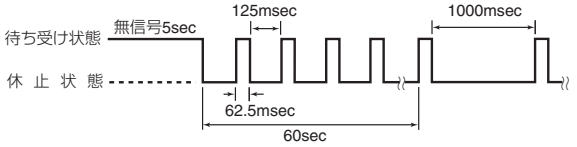
電池の電流消費を抑えるため、パワーセーブ機能を設定します。

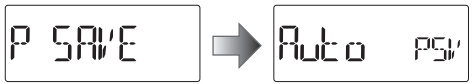
- P SAVE

  OFF　：パワーセーブが動作しません。

  2/8/16/32　：比 率 を1：2、1：8、1：16、1：32に設定します。

  Auto　：無信号の状態が約5秒間つづくと、“1：2(62.5msec：125msec)”の比率で動作します。
  その後も、無信号の状態が約60秒間つづくと、“1：16(62.5msec：1000msec)”の比率で動作します。(初期設定)





パワーセーブ機能の設定　　Autoに設定

【ご参考～パワーセーブ機能について】
外部電源(DC10V以上)でお使いの場合、パワーセーブ機能は動作しません。

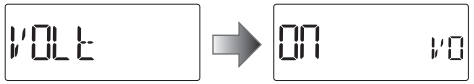
◇ 電圧表示機能の設定

電源を入れたときの供給電圧の表示を設定します。

- VOLt

  OFF　：電圧表示を表示しません。

  On　：電圧表示を表示します。(初期設定)



電源電圧表示機能の設定　　ONに設定

◇ DTMFスピードの設定

DTMFコードの送出する速さを設定します。

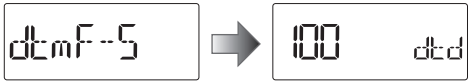
- dtmF-S

  100　：1桁あたり約100ミリ秒で送出し、1秒間に約5桁のDTMFコードを送出します。(初期設定)

  200　：1桁あたり約200ミリ秒で送出し、1秒間に約2.5桁のDTMFコードを送出します。

  300　：1桁あたり約300ミリ秒で送出し、1秒間に約1.6桁のDTMFコードを送出します。

  500　：1桁あたり約500ミリ秒で送出し、1秒間に約1桁のDTMFコードを送出します。

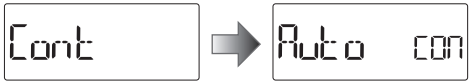


DTMFスピードの設定　　約100ミリ秒で送出に設定

◇ LCDコントラストの設定

ディスプレイのコントラストを設定します。

- Cont
  - Auto ：通常は「HI」ですが、高温になると自動的に「LO」に切り替わります。(初期設定)
  - HI ：コントラストの設定を濃くします。
  - LO ：コントラストの設定を淡くします。

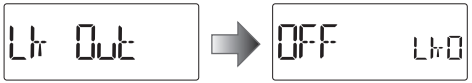


LCDコントラストの設定　　Autoに設定

◇ビジーロックアウト機能の設定

信号を受信している状態、またはスケルチが開いている状態で、[PTT]による送信の禁止または許可を設定します。

- Lk Out
  - OFF ：[PTT]での送信を許可します。(初期設定)
  - On ：信号受信中、またはスケルチが開いている状態では、[PTT]での送信を禁止します。

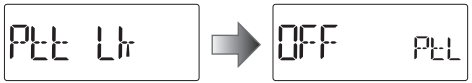


ビジーロックアウト機能の設定　　OFFに設定

◇ PTTロック機能の設定

[PTT]による送信禁止機能を設定します。

- Ptt Lk
  - OFF ：PTTロック機能オフ(初期設定)
  - On ：PTTロック機能オン

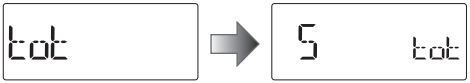


PTTロック機能の設定　　OFFに設定

◇タイムアウトタイマーの設定

連続して送信できる時間を制限します。
※設定した時間の10秒前にビープ音を鳴らして知らせます。

- tot
  - OFF ：送信時間を制限しません。
  - 1～30：1分～30分の中から送信時間を制限します。(初期設定値　5分)



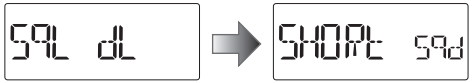
タイムアウトタイマー機能の設定　　5分に設定

9 SET モード・イニシャル SET モード

◇ スケルチディレイの設定

受信信号が途切れてスケルチが閉じるまでの遅延時間を設定します。

- SqL dL
  SHORt: スケルチ遅延時間を短くします。(初期設定)
  LOnG : スケルチ遅延時間を長くします。
  弱い信号を受信中、スケルチが開いたり閉じたり繰り返すのを防いで、聞き取りやすくします。

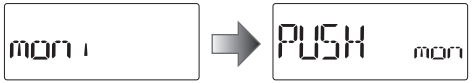


スケルチディレイの設定　SHORtに設定

◇ モニター機能の設定

モニター機能の操作で、[MONI](BAND)を押しているあいだ動作させるか、押すごとにモニター機能を“ON/OFF”させるかを設定します。

- moni
  PUSH : 押しているあいだだけスケルチを開きます。
  (初期設定)
  HOLd : 長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すとモニター機能が“ON”になり、再度短く押すと“OFF”になります。

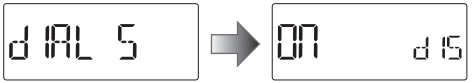


モニター機能の設定　PUSHに設定

◇ ダイヤルスピードの設定

[DIAL]を速く回したときに、さらにスピードアップするダイヤルスピード機能を設定します。

- dIAL S
  OFF : [DIAL]を回す速度にあわせます。
  On : スピードアップします。(初期設定)

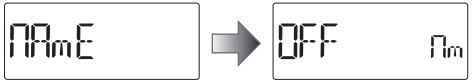


ダイヤルスピードの設定　ONに設定

◇ メモリーネーム表示の設定

メモリーモードで、周波数表示からネーム表示に切り替えます。バンクモード時は、バンクネームを表示します。

- nAmE
  OFF : 登録している周波数を表示します。(初期設定)
  On : メモリーネーム、またはバンクネームを表示します。

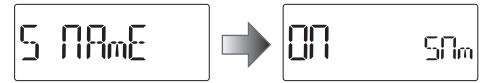


メモリーネーム表示の設定　OFFに設定

◇ スキャンネーム表示の設定

スキャン開始操作でスキャンする範囲(プログラムスキャン/プログラムリンクスキャン)、またはバンクスキャンを選択しているときに、登録しているスキャンネーム/リンクスキャンネーム/バンクネームを表示するか、しないかを設定します。

- S nAmE
  - OFF　：スキャンネームを表示しません。
  - On　：スキャンネームを表示します。(初期設定)

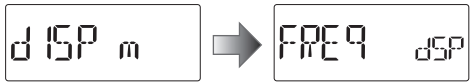


スキャンネーム表示の設定　Onに設定

◇ 表示モードの設定

メモリーチャンネルだけで運用する表示モードを設定します。

- dISP m
  - FREq ：周波数を表示します。(初期設定)
  - CH　：メモリーチャンネルに登録したチャンネルをすべて表示します。
  - PRIV ：メモリーチャンネルに登録したチャンネル(CH0～CH5)だけを表示します。

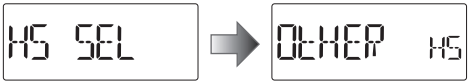


表示モードの設定　FREqに設定

◇ ヘッドセット選択の設定

VOX機能で使用するヘッドセットを設定します。

- HS SEL
  - OtHER ：HS-95以外のヘッドセット(HS-94、またはHS-97)を使用するときに設定します。(初期設定)
  - HS-95 ：HS-95を使用するときに設定します。

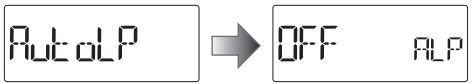


ヘッドセット選択の設定　OtHERに設定

◇ オートLOWパワーの設定

0℃以下の環境で、バッテリーパック保護のために自動的に送信出力をLOWパワー(約0.5W)に切り替える、オートLOWパワー機能を設定します。
このとき、HIGHパワー/MIDパワーの選択は無効になります。

- AutoLP
  - OFF　：オートLOWパワー機能が動作しません。(初期設定)
  - ON　：0℃以下の環境になると、自動的に送信出力をLOWパワーに切り替えます。



オートLOWパワーの設定　OFFに設定

10 各種機能の使いかた

■ DTMFメモリー機能の使いかた

最大24桁のDTMF信号を、16チャンネルのDTMFメモリーに記憶できます。

◇ DTMFメモリーの書き込みかた

① [SET]を押して、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「dtmF」(**DTMFメモリー編集設定**)を選択します。
- ●DTMFメモリーモードの選択状態にします。

② [VOL]を回して、書き込みたいDTMFメモリーチャンネル(d0～dF)を選択します。

③ [SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、1桁目が点滅してDTMFコードの編集状態になります。

④ DTMFコードを入力します。
- ●DTMFコード選択　：[DIAL]を回す
- ●カーソル右移動　：[BAND]を短押し
- ●カーソル左移動　：[SET]を短押し

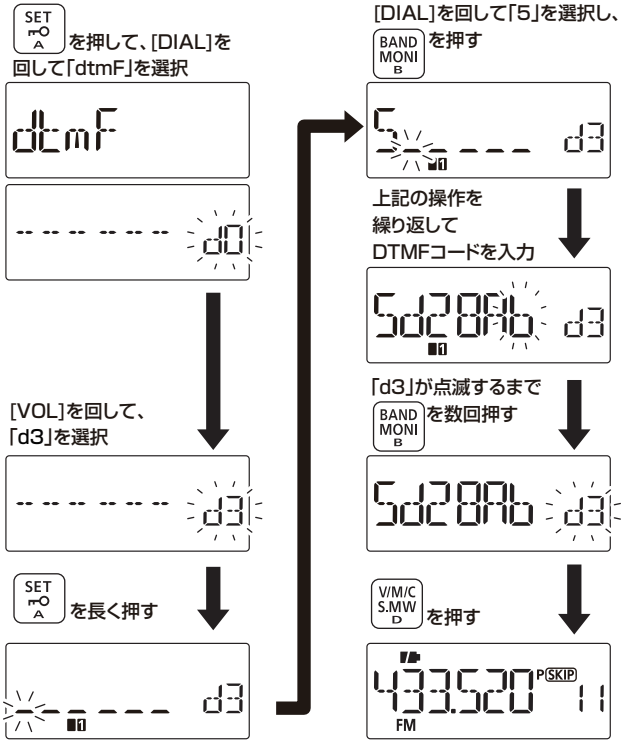
※6桁以上入力したときは、6桁ずつ順送り表示します。
※設定できるコードは24桁までです。
24桁入力したときは、自動的にコードを書き込みます。

⑤ 入力が完了したら、DTMFメモリーチャンネル(d0～dF)が点滅するまで[BAND]を数回押します。
- ●DTMFメモリーの編集を終了します。

⑥ [V/M/C]を押すと、SETモードを解除します。

※つづけて別のDTMFメモリーチャンネルに書き込むときは、前記②～⑤を繰り返してください。

《例》DTMFメモリー「d3」に「5d28Ab」のDTMFコードを書き込む場合



◇ DTMFコードの削除のしかた

不要になったDTMFメモリーのコードを消去できます。

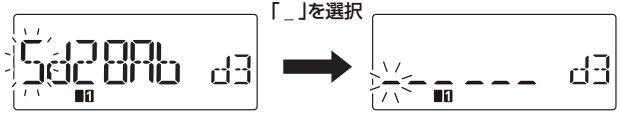
① [SET]を押して、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「dtmF」(DTMFメモリー編集設定)を選択します。
●DTMFメモリーモードの選択状態にします。

② [VOL]で、削除したいDTMFメモリーチャンネル(d0～dF)を選択します。

③ [SET]を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、1桁目が点滅します。

④ [DIAL]を回して、1桁目に「_」を選択すると、選択したメモリーのDTMFコードはすべて消去されます。
※点滅している桁で「_」を選択すると、「_」表示以降の桁がすべて「_」になり、消去されます。

[DIAL]を回して「_」を選択



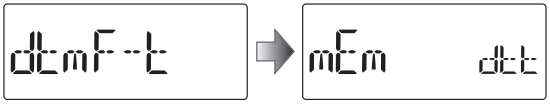
⑤ [BAND]を押すと、確定します。

⑥ [V/M/C]を押すと、SETモードを解除します。

◇ DTMFメモリーモードから送出する(IC-S70のみ)

① [SET]を押して、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「dtmF-t」(DTMF送信キーの設定)(☞P56)を選択します。

② [VOL]を回して、「mEm」を選択します。



DTMF送信キーの設定　　mEm選択時

③ [DIAL]を回して、「dtmF」(DTMFメモリー編集設定)を選択します。
●DTMFメモリーモードの選択状態にします。

④ [VOL]を回して、送出したいDTMFメモリーチャンネル(d0～dF)を選択します。

⑤ [V/M/C]を押して、SETモードを解除します。

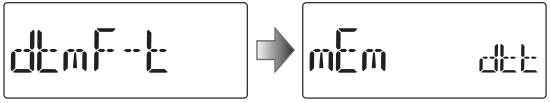
⑥ [PTT]を押しながら、[MONI](BAND)を押します。
DTMFメモリーコードが順に送出されると同時に、**"ピポパ"**音が鳴ります。

【1750Hzトーン周波数について】
上記②の操作で「t-CALL」項目を選択して、[PTT]を押しながら[MONI](BAND)を押すと、1750Hzのトーン周波数を送出します。

◇ 周波数表示からDTMFメモリーを送出する (IC-T70のみ)

DTMFメモリーチャンネルを送信中にキーから呼び出して、送出できます。
キーを押すと、登録されたDTMFメモリーチャンネルを送出します。

① **[SET]**を押して、SETモードに入ります。
② **[DIAL]**を回して、**「dtmF-t」(DTMF送信キーの設定)**の設定内容を表示します。
③ **[VOL]**を回して、**「mEm」**を選択します。



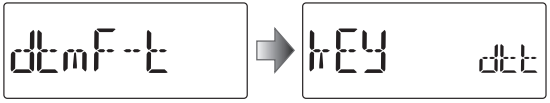
DTMF送信キーの設定　　mEm選択時

④ **[V/M/C]**を押して、SETモードを解除します。
⑤ **[PTT]**を押しながら、テンキー(**[0]**～**[9]**)、**[A](SET)**、**[B](BAND)**、**[C](H/M/L)**、**[D](V/M/C)**、**[#]**、**[*]**でDTMFメモリーのチャンネル番号を押すと、選択されたDTMFメモリーチャンネルのコードが送出されます。
DTMFメモリーのコードが順に送出されると同時に、**"ピポパ"**音が鳴ります。

【1750Hzトーン周波数について】
上記③の操作で**「t-CALL」**項目を選択して、**[PTT]**を押しながら**[MONI](BAND)**を押すと、1750Hzのトーン周波数を送出します。

◇ テンキーから直接DTMFコードを送出する (IC-T70のみ)

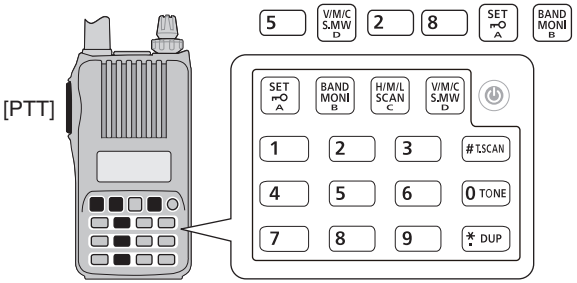
① **[SET]**を押して、SETモードに入ります。
② **[DIAL]**を回して、**「dtmF-t」(DTMF送信キーの設定)**の設定内容を表示します。
③ **[VOL]**を回して、**「kEy」**を選択します。
④ **[V/M/C]**を押して、SETモードを解除します。



DTMF送信キーの設定　　kEy選択時

⑤ **[PTT]**を押しながら、テンキーでDTMFコードを押すと、そのコードが送出されます。
DTMFコードが順に送出されると同時に、**"ピポパ"**音が鳴ります。

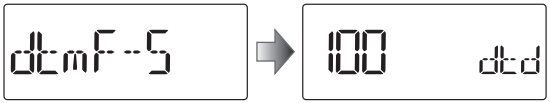
《例》「5d28Ab」のDTMFコードを送出する場合



◇ DTMFスピードの設定

初期設定でDTMFメモリーの送出スピードは、約100ミリ秒間隔に設定していますが、イニシャルSETモードから変更できます。

① [⏻]を長く押して、OFFにします。
② [SET]を押しながら[⏻]を長く押してイニシャルSETモードに入ります。
③ [DIAL]を回して、「dtmF-S」(DTMFスピードの設定)の設定内容を表示します。



DTMFスピードの設定　100選択時

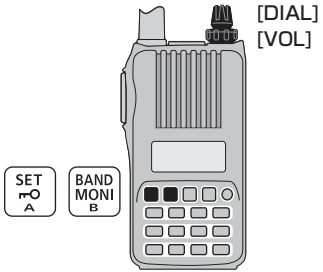
④ [VOL]を回して、DTMF送出スピードを選択します。
- ●100　：1桁あたり約100ミリ秒で送出し、1秒間に約5桁のDTMFコードを送出します。(初期設定)
- ●200　：1桁あたり約200ミリ秒で送出し、1秒間に約2.5桁のDTMFコードを送出します。
- ●300　：1桁あたり約300ミリ秒で送出し、1秒間に約1.6桁のDTMFコードを送出します。
- ●500　：1桁あたり約500ミリ秒で送出し、1秒間に約1桁のDTMFコードを送出します。

⑤ [⏻]を押して、イニシャルSETモードを解除します。

◇ DTMFコードのモニターのしかた

設定したDTMFメモリーのモニターができます。

① [SET]を押して、SETモードに入り、[DIAL]を回して、「dtmF」(DTMFメモリー編集設定)を選択します。
　●DTMFメモリーモードの選択状態にします。
② [VOL]を回して、送出したいDTMFメモリーチャンネル(d0～dF)を選択します。
③ [MONI](BAND)を押すと、設定されているDTMFコードの"ピポパ"音が鳴ります。



[MONI](BAND)を押すと、DTMFコードのモニターができます。
(上図の場合、d0にメモリーされている「5d28Ab」がモニターできます。)

■ トーンスケルチ/DTCSコードスケルチ/ポケットビープ機能の使いかた

◇ トーン機能とは

送信周波数にCTCSSトーン周波数またはDTCSコードを重畳して送出します。
受信時には重畳されたCTCSSトーン周波数、またはDTCSコードが一致したときだけ、受信回路を動作させ、特定局の個別呼び出しができる便利な機能です。

◇ トーンスケルチ/DTCSコードスケルチ機能とは

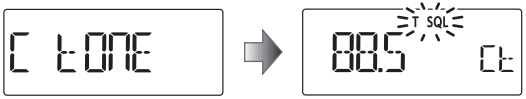
特定の相手局と交信するときに便利な機能です。
自局が設定したCTCSSトーン周波数またはDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開いて通話できるので、快適な待ち受け受信ができます。
逆に、自局が設定したCTCSSトーン周波数やDTCSコードを受信したときだけ、スケルチが開かない逆トーンスケルチ/逆DTCSスケルチ(TSQL R/DTCS R：受信のみ)も用途にあわせてご利用ください。

◇ ポケットビープ機能とは

トーンスケルチ機能での待ち受け受信中、呼び出しを受けるとビープ音で知らせる便利な機能です。
呼び出しを受けると、ビープ音**"ピロピロピロ"**が約30秒間鳴りつづけるとともに、表示部の「((•)) 」(ベルマーク表示)を点滅して知らせるので、聞き逃すことがありません。

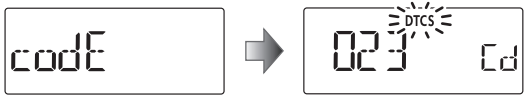
◇ CTCSSトーン周波数を設定する

CTCSSトーン周波数は、SETモードから設定します。
① 運用周波数を設定します。(☞P16)
② **[SET]** を押 してSETモ ー ド に入 り、**[DIAL]** を回 して**「C tOnE」(CTCSSトーン周波数の設定)**を選択します。
③ **[VOL]**を回して、トーン周波数を選択します。
④ **[V/M/C]**を押すと、SETモードを解除します。



◇ DTCSコードを設定する

DTCSコードは、SETモードから設定します。
① 運用周波数を設定します。(☞P16)
② **[SET]** を押 してSETモ ー ド に入 り、**[DIAL]** を回 して**「codE」(DTCSコードの設定)**を選択します。
③ **[VOL]**を回して、DTCSコードを選択します。
④ **[V/M/C]**を押すと、SETモードを解除します。



【ご参考】
隣接したトーン周波数/DTCSコードを使用している局がいると、トーンスケルチを開くことがあります。

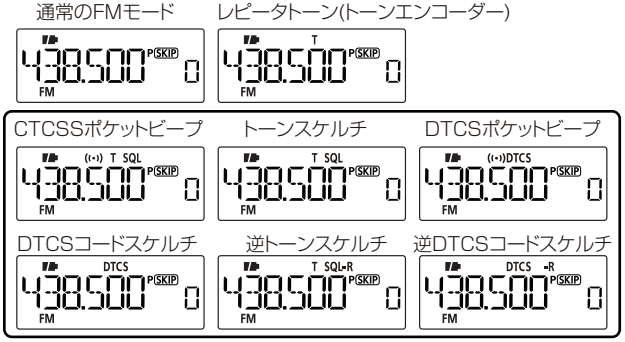
◇ 運用モードを設定して、交信する

(IC-T70の場合)

① 運用周波数を設定します。(☞P16)
② **[TONE](O)**を繰り返し長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押して、使いたい運用モードを選択します。
[TONE](O)を押しながら、**[DIAL]**を回しても選択できます。
③ **[PTT]**を押して相手局を呼び出し、通常の運用と同様に交信します。

(IC-S70の場合)

① 運用周波数を設定します。(☞P16)
② **[SET]**を押してSETモードに入り、**[DIAL]**を回して**「tOnE」(TONE/DTCSの設定)**を選択します。
③ **[VOL]**を回して、使いたい運用モードを選択します。
④ **[V/M/C]**を押すと、SETモードを解除します。
⑤ **[PTT]**を押して相手局を呼び出し、通常の運用と同様に交信します。



◇ ポケットビープで待ち受け受信しているとき

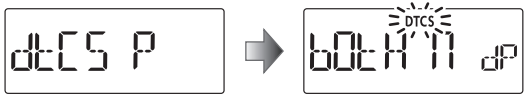
呼び出しを受けたら、30秒以内に**[PTT]**を押して通話するか、**[MOMI](BAND)**を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押してモニター操作をすると、ポケットビープ機能は解除(「((•)) 」が消灯する)され、トーンスケルチ機能またはコードスケルチ機能の動作に変わります。
また、30秒経過しても何も操作しなかった場合、ビープ音は自動停止しますが、「((•)) 」(ベルマーク表示)は点滅をつづけて、呼び出されたことを知らせます。

◇ DTCS位相反転機能について

送信側、受信側にそれぞれの組み合わせで、DTCSコードの送出または検出の位相をSETモードで設定できます。

① 運用周波数を設定します。(☞P16)
② **[SET]**を押してSETモードに入り、**[DIAL]**を回して**「dtCS P」(DTCS位相反転機能の設定)**を選択します。
③ **[VOL]**を回して、下記から選択します。
- ●both n　：送信/受信とも反転しません。(初期設定)
- ●tn-RR　：送信側を反転しないで、受信側を反転します。
- ●tR-Rn　：送信側を反転し、受信側は反転しません。
- ●both R　：送信/受信とも反転します。

④ **[V/M/C]**を押すと、SETモードを解除します。



■ CTCSSトーン/DTCSコードスキャンのしかた

トーンスケルチ機能を使用して交信している局が、どのトーン周波数またはDTCSコード(☞P50、P51)を使用しているかを検知するスキャンです。

- VFO/メモリー/CALL-CHモードに関係なく動作します。
- スキャン中に**[DIAL]**を時計回りに回すと、アップスキャンに、反時計回りに回すとダウンスキャンに切り替えます。

◇ スタート操作

①運用モードを設定します。70ページの「◇運用モードを設定して、交信する」を参照してください。
②スキャンを開始します。

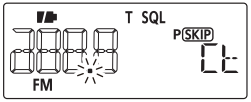
(IC-T70の場合)
[T.SCAN](#)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押すと、トーン周波数(DTCSコード)を表示して、CTCSSトーンスキャン(DTCSコードスキャン)を開始します。

(IC-S70の場合)
[SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、**[DIAL]**を回して**「tOnE」(トーンスキャン)**を選択します。
[SCAN](H/M/L)を押すと、トーン周波数(DTCSコード)を表示して、CTCSSトーンスキャン(DTCSコードスキャン)を開始します。

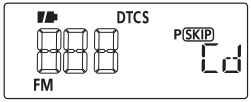
③**[V/M/C]**、**[SCAN](H/M/L)**、 または **[T.SCAN](#)** (IC-T70のみ)を押すと、トーンスキャン動作を解除します。

- スキャン中に信号を受信して、スケルチが開くとゆっくりスキャンし、信号がなくなりスケルチが閉じているときは速くスキャンします。
- 一致したトーン周波数またはDTCSコードを検知すると、スキャンが約10秒間(スキャン一時停止タイマーで設定した時間)一時停止し、トーン周波数(DTCSコード)を自動的に書き換えたあと(VFOモード時のみ)、スキャンを再スタートします。
- ポケットビープ状態から、トーンスキャンをすると、ポケットビープを解除して、トーン周波数(DTCSコード)スキャンになります。
- **T SQL** :トーンスケルチ用トーンを書き換える
- **DTCS** :DTCSコードを書き換える

トーンスケルチ設定時のトーンスキャンの表示



DTCSエンコーダー設定時のコードスキャンの表示



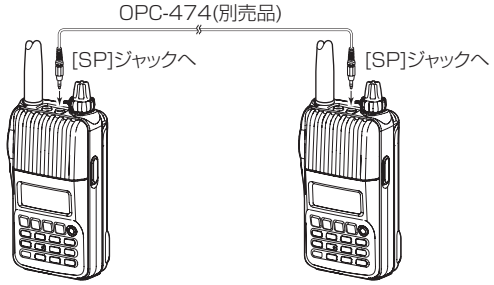
【ご注意】
トーンスケルチモードでトーン周波数が一致するとトーンスケルチ用トーン周波数を書き換えますので、レピータ運用またはトーンスケルチ運用時はご注意ください。
ただし、M-CH、またはCALL-CHでトーンスキャンをしたときは、一時的に記憶しますが、書き換えはしません。

■ クローニングについて

クローニングとは、1台のIC-T70/IC-S70に設定したメモリーの内容やSETモードの設定内容を、ほかのIC-T70/IC-S70に送出して、同じ設定内容にする機能です。

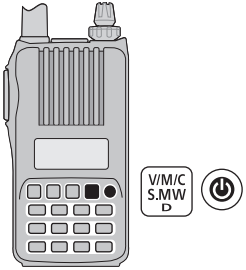
◇ クローニングのしかた

① 下図のようにOPC-474(別売品)で接続します。



② 子機(クローニング受信側)の電源を"ON"にします。

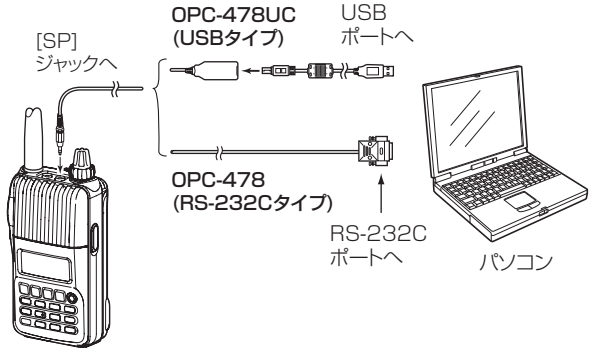
③ 親機(送出側)の操作
[V/M/C]を押しながら、[⏻]を押して電源を"ON"にします。
「CLOnE m」を表示します。



④ [PTT]を押すと、親機(クローニング送信側)では、「CL Out」を表示し、設定内容を送出します。子機(クローニング受信側)では「CL In」を表示します。

※子機側に「CL End」を表示して、クローニングが完了します。

◎クローニングには左記の本体同士でのクローニングのほかに、パソコン(PC)でクローニングする方法があります。
PC用クローニングソフトウェアとして、CS-T70をご用意しています。
CS-T70を使用すると、パソコンからメモリーやバンク名の入力、バンクの登録など、効率よく設定できます。
詳しくは、販売店におたずねください。



11 別売品について

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。
弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧

マイクロホン/スピーカー関係

HM-186 : 小型スピーカーマイクロホン
HM-153 : 小型イヤホンマイクロホン
HS-94 : イヤーフック型ヘッドセット*
HS-95 : ネックアーム型ヘッドセット*
HS-97 : 咽喉マイク*
*OPC-2006が別途必要

バッテリー関係

BP-263 : バッテリーケース(単3形アルカリ電池用)(補修用)
BP-264 : ニッケル水素バッテリーパック(補修用)[7.2V 1400mAh(Typ.)]

充電関係

BC-191 : 卓上急速充電器(BP-264用)
※ACアダプター付属
BC-167S : バッテリーチャージャー(補修用)
OPC-254L : 電源ケーブル
CP-12L : ノイズフィルター付きシガレットライターケーブル
CP-19 : DC-DCシガレットライターケーブル
CP-23L : シガレットライターケーブル(BC-191用)
OPC-515L : DC電源ケーブル(BC-191用)

ケーブル/コントロールソフトウェア関係

CS-T70 : クローニングソフトウェア
※OPC-478/OPC-478UCのどちらか別途必要
OPC-474 : クローニングケーブル(本製品同士用)
OPC-478UC : クローニングケーブル(本製品—パソコン間用 : USBタイプ)
OPC-478 : クローニングケーブル(本製品—パソコン間用 : RS-232Cタイプ)
OPC-2006 : VOX対応変換ケーブル
※HS-94/HS-95/HS-97のどれか別途必要

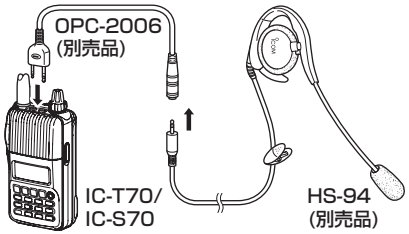
その他

AD-92SMA : SMA-BNC変換アダプター
LC-174 : キャリングケース
MB-124 : ベルトクリップ(補修用)

■ VOX機能の使いかた

本製品は、**「PTT」**を押さずに、ヘッドセット(別売品)からの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能を搭載しています。
下図のように、本製品に、別売品のVOX対応変換ケーブル(OPC-2006)と、ヘッドセット(HS-94/HS-95/HS-97のどれか)を接続すると、VOX機能が使用できます。

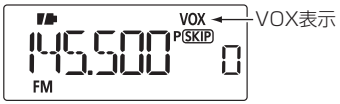
【ご注意】
必ず本製品の電源を切ってから、OPC-2006を[MIC/SP]ジャックに抜き差ししてください。



◇ VOX機能の設定のしかた

① **[SET]**を押してSETモードに入り、**[DIAL]**を回して**「VOX」(VOX機能の設定)**を選択します。
② **[VOL]**を回して、**「On」**を選択します。
③ **[V/M/C]**を押して、SETモードを解除します。

●VOX機能が使用可能状態になると、**「VOX」**を表示します。



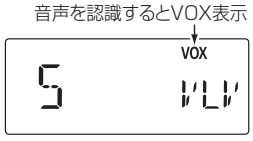
VOX表示

【ご注意】
●VOX機能使用時は、**「VOX LV」(VOX感度の設定)**(☞P57)を設定する前に**「mic G」(MICゲインの設定)**(☞P57)を**「3」**に設定することを推奨します。
●**「HS SEL」(ヘッドセット選択の設定)**でご使用になるヘッドセットを選択してください。(☞P64)

◇ VOX感度の設定のしかた

最適なVOX感度に設定します。
① **[SET]**を押してSETモードに入り、**[DIAL]**を回して**「VOX LV」(VOX感度の設定)**を選択します。
②通話するときと同じ大きさの声を出しながら、**[VOL]**を回して、VOX感度を設定します。

●ヘッドセットからの音声で、**「VOX」**を表示します。
声を出しているあいだ、継続して**「VOX」**が表示される感度に設定してください。



※継続して表示されない場合は、**「VOX.dLy」(VOXディレイの設定)**を十分な長さに設定してください。(☞P58)
※SETモード表示中は、ヘッドセットからの音声を送信しません。

③ **[V/M/C]**を押して、SETモードを解除します。
※VOX機能使用時、送信中に**[DIAL]**を回しても、VOXゲインを変更できます。

◇ VOX機能の詳細設定について

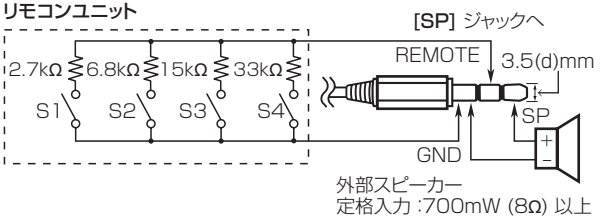
VOX機能の詳細設定は、SETモードで設定できます。
使用環境、ヘッドセットの環境にあわせて変更してください。

●**VOX.dLy(VOXディレイの設定)**
:送信停止までの遅延時間を設定します。(☞P58)
●**VOX.tot(VOXタイムアウトタイマーの設定)**
:連続して送信できる時間を制限します。(☞P58)

11 別売品について

■ シンプルマイク機能の使いかた

無線機の[SP]ジャックにリモコンユニットを接続して使用するとき、必要最小限のリモコン機能を設定します。
イニシャルSETモードの**「mic S」(シンプルマイク機能の設定)**(☞P59)で設定できます。(右表参照)



【ご注意】
必ず本製品の電源を切ってから、リモコンユニットを[SP]ジャックに抜き差ししてください。

● **SImPLE設定時の機能割り当て**

S1	CALL-CHの呼び出し
S2	モニター機能を**"ON/OFF"**
S3	M-CHの000CHを呼び出す
S4	M-CHの001CHを呼び出す

● **nORm-1設定時の機能割り当て (初期設定)**

S1	VFO/メモリーモードの切り替え
S2	バンドの切り替え
S3	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをアップ
S4	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをダウン

● **nORm-2設定時の機能割り当て**

S1	VFO/メモリーモードの切り替え
S2	モニター機能の**"ON/OFF"**
S3	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをアップ
S4	VFO時の周波数またはメモリー時のM-CHをダウン

● **共通の機能割り当て (SImPLE/nORm-1/nORm-2)**

S1	—
S2	送信時は**t-CALL***を送出します
S3	モニター機能動作時は音量を上げます
S4	モニター機能動作時は音量を下げます

*1750Hzトーン信号

■ 工場出荷時の状態に戻す(リセット)には

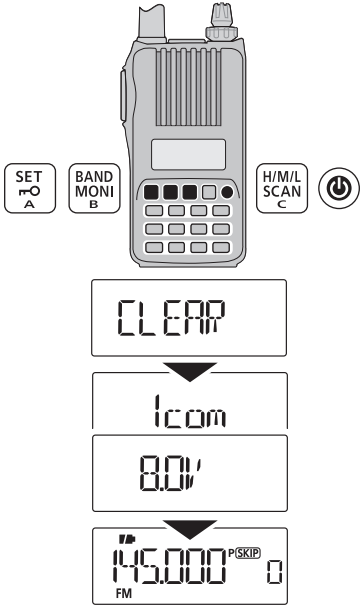
静電気などによる外部要因で、CPUが誤動作して動作がおかしくなったときは、オールリセット、またはパーシャルリセット操作をしてください。

◎オールリセット操作をすると、記憶されているデータはすべて消去され、変更した設定はすべて初期設定に戻ります。

◎パーシャルリセット操作をすると、下記のデータはそのまま残ります。
- ●メモリーチャンネルデータ
- ●スキャンエッジ
- ●コールチャンネル
- ●DTMFメモリー

◇ オールリセットのしかた

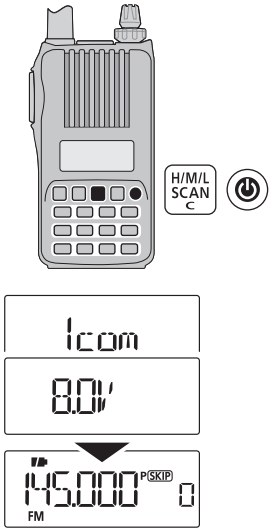
① [⏻]を長く押し、電源を“OFF”にします。
② [SET]、[BAND]、[H/M/L]を同時に押しながら、[⏻]を長く押して電源を“ON”にします。
- ●「CLEAR」を表示したあと、「Icom」と電圧を表示し、初期表示になります。



◇ パーシャルリセットのしかた

① [⏻]を長く押し、電源を“OFF”にします。
② [H/M/L]を押しながら、[⏻]を長く押して電源を“ON”にします。
- ●「Icom」と電圧を表示し、初期表示になります。

※パーシャルリセットの場合、「CLEAR」表示はありません。



12 ご参考に

■ 故障かな？と思ったら

下記の現象は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検してください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまで、お問い合わせください。

現　　象	原　　因	処　　置	参照
●電源が入らない	◎バッテリーパック(ケース)の接触不良 ◎電池の極性間違い ◎バッテリーパックまたは電池の消耗	◉バッテリーパック(ケース)の端子を清掃する ◉極性を確認して、電池を入れなおす ◉バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える	P4 P3 P3～P7
●スピーカーから音が出ない	◎音量が小さくなっている ◎[SP]ジャックに外部スピーカーを接続している	◉**[VOL]**を回して、音量を設定しなおす ◉外部スピーカープラグが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	P13 −
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート(外部アンテナ使用時)	◉同軸ケーブルを点検し、正常にする	−
●電波が出ないか、電波が弱い	◎LOW/MIDパワーのいずれかの設定になっている ◎バッテリーパックまたは電池の消耗 ◎PTTロック機能が動作している	◉HIGHパワーにする ◉バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える ◉PTTロック機能を解除する	P19 P3～P7 P62
●送信しても応答がない	◎デュプレックス運用になっていて、送受信の周波数が違っている	◉デュプレックス運用を解除し、送受信の周波数を同じにする	P23
●周波数の設定ができない	◎ロック機能が動作している ◎メモリーモードまたはコールチャンネルモードになっている	◉ロック機能を解除する ◉**[V/M/C]**を押して、VFOモードにする	P20 P14
●周波数が異常な表示になっている	◎CPUが誤動作している ◎静電気などによる外部要因	◉リセットする ◉バッテリーを装着しなおす	P76 P2
●プログラムスキャンが動作しない	◎VFOモードになっていない ◎PROGRAM-CHの「＊A」と「＊B」に同じ周波数が書き込まれている	◉**[V/M/C]**を押して、VFOモードにする ◉「＊A」と「＊B」に違う周波数を書き込む	P14 P28
●メモリースキャンが動作しない	◎メモリーモードになっていない ◎M-CHに2CH以上書き込まれていない	◉**[V/M/C]**を押して、メモリーモードにする ◉2CH以上をM-CHに書き込む	P14、P26 P28
●VOX機能による送信ができない	◎VOX感度が「OFF」、または低い値になっている ◎マイク感度が、低い値になっている	◉VOX感度を最適値に設定する ◉マイク感度を最適値に設定する	P57、P74 P57

現　　象	原　　因	処　　置	参照
●「HOt」が表示して、送信できない	◎本体内部が熱くなり、送信禁止状態になっている	◉本製品を冷ましてから送信する	P18

■ アフターサービスについて

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

取扱説明書にしたがって、もう一度、本製品の設定、「故障かな?と思ったら(☞P77)」などを調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

◇ 弊社製品のお問い合わせ先について

●お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社　サポートセンター

0120-156-313 (フリーダイヤル)

◆携帯電話•PHS•公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付 (平日 9:00～17:00)

電子メール : support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ : http://www.icom.co.jp/

● 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」または弊社ホームページ http://www.icom.co.jp をご覧ください。

13 定 格

■ 一般仕様

- **送信/受信周波数範囲** ： 144.000～146.000MHz
  430.000～440.000MHz
- **使用温度範囲** ： −20～+60℃
- **周波数安定度** ： ±2.5PPM以内(−20～+60℃)
  (25℃を基準とする)
- **周波数分解能** ： 5、10、12.5、15、20、25、30、50、100、
  125、200kHz
- **メモリーチャンネル数** ： 302チャンネル
  (PROGRAM-CH 0A～24B : 50チャンネル、
  CALL-CH : 2チャンネルを含む)
- **電源電圧** ： 外部端子 : 10～16V DC
  電池端子 : 指定のバッテリーパック
  (BP-264)
  指定のバッテリーケース
  (BP-263)
- **接地方式** ： マイナス接地
- **電波型式** ： F2D、F3E
- **アンテナインピーダンス** ： 50Ω 不平衡(SMA型)
- **外形寸法** ： 58.0(W)×111.0(H)×30.0(D)mm
  (突起物を除く)
- **重量** ： 約380g(アンテナ、BP-264含む)

■ 送信部

- **変調方式** ： FMリアクタンス変調
- **最大周波数偏移** ： FM(ワイド) ±5.0kHz
  FM N(ナロー) ±2.5kHz
- **マイクロホンインピーダンス** ： 2.2kΩ
- **スプリアス発射強度** ：
  HIGH/MID −60dBc以下
  (スプリアス領域/帯域外領域)
  LOW −10dBm以下 (帯域外領域)
  −13dBm以下 (スプリアス領域)
- **送信出力/消費電流** ： DC 7.2V時(typ.値)

送信レベル	144MHz		430MHz	
	送信出力	消費電流	送信出力	消費電流
HIGH	5.0W	1.7A	5.0W	2.1A
MID	2.5W	1.2A	2.5W	1.5A
LOW	0.5W	0.6A	0.5W	0.8A

■ 受信部

- **受　信　方　式**：ダブルスーパーヘテロダイン
- **中　間　周　波　数**：1st IF　46.35MHz
  2nd IF　450kHz
- **選　択　度**：FM(ワイド)　60dB以上
  FM(ナロー)　60dB以上
- **スプリアス妨害比**：144MHz帯　60dB以上
  430MHz帯　60dB以上
- **不　要　輻　射**：−54dBm以下
- **受信消費電流**：DC 7.2V時(typ.値)
  最大出力時　内部スピーカー；450mA以下
  外部スピーカー；300mA以下
  パワーセーブ時　40mA以下
  待ち受け時　90mA以下
- **低　周　波　出　力**：内部スピーカー；0.7W以上
  (DC 7.2V 16Ω負荷 10%歪率時)
  外部スピーカー；0.4W以上
  (DC 7.2V　8Ω負荷 10%歪率時)
- **低周波負荷インピーダンス**：内部スピーカー；16Ω
  外部スピーカー；8Ω
- **受　信　感　度**：(スプリアスポイントは除く)
  FM 12dB SINAD　144.000〜146.000MHz　−15dBμ以下
  (1kHz 3.5kHz DEV)　430.000〜440.000MHz　−15dBμ以下
- **スケルチ感度**：
  FM　144.000〜146.000MHz　−15dBμ以下
  (1kHz 3.5kHz DEV)　430.000〜440.000MHz　−15dBμ以下

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。
※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更することがあります。

■ 急速充電器(BC-191：別売品)

- **名　　称**：BC-191ニッケル水素卓上急速充電器
- **入力電圧範囲**：DC 12.0〜16.0V
- **使用温度範囲**：10〜40℃
- **寸　　法**：87.5(W)×53.7(H)×72.8(D)mm

※定格、外観、仕様などは、改良のため予告なしに変更する場合があります。

14 免許申請について

本製品は技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた「技術基準適合送受信機」ですから、免許の申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」は、下記の要領で記入してください。
なお、免許の申請は総務省のホームページ「電波利用 電子申請・届出システム」http://www.denpa.soumu.go.jp/public/index.html でも受け付けています。

■ 無線局事項書の書きかた

	希望する周波数帯	電波の型式	空中線電力	希望する周波数帯	
13 電波の型式並びに希望する周波数及び空中線電力	☐ 50M	☐ 3VA ☐ 4VA ☐ 3VF ☐ 4VF ☐	W ☐		
	☑ 144M	☐ 3VA ☐ 4VA ☐ 3VF ☑ 4VF ☐	10W ☐		
	☑ 430M	☐ 3VA ☐ 4VA ☐ 3VF ☑ 4VF ☐	10W	☐4630kHz	A1A

■ 工事設計書の書きかた

終段管の名称と個数、電圧については、送信機系統図に記載された、FINAL AMPの名称と個数、電圧を記入してください。

装置の区別	変更の種別	技術基準適合証明番号	発射可能な電波の型式及び周波数の範囲	※ 整理番号 変調方式	終段管 名称個数	終段管 電圧	定格出力(W)
第1送信機	☐ 取替 ☐ 増設 ☐ 撤去 ☐ 変更	**工事設計認証番号(認証番号)を記入**	144MHz帯 / 430MHz帯 } F2D,F3E	F2D,F3E: リアクタンス変調		V	144MHz帯: 5.0W 430MHz帯: 5.0W
送信空中線の型式				周波数測定装置の有無	☐ 有(誤差0.025%以内) ☑ 無		
添付図面		☑ 送信機系統図	その他の工事設計	☑ 法第3章に規定する条件に合致する。			

本体に、技適マークと認証番号が記載されたシリアルナンバーシールを貼っています。その認証番号を記入してください。
必ず申請に使用するトランシーバー本体をご確認ください。

移動する局(空中線電力が50W以下の局)は記入の必要ありません。

認証番号を記入しているときは、記入する必要はありません。
付属装置(TNCなど)、または付加装置(トランスバーターやパワーブースターなど)を付ける場合は、非技術基準適合送受信機となりますので、TSS株式会社の保証認定を受ける必要があります。
したがって、網かけ部分に発射可能な電波型式などを追記し、お使いになる装置を含めた送信機系統図を添付して申請してください。
※工事申請書には、一括記載コードではなく、個別の電波型式を記入してください。

◇保証認定の申請について

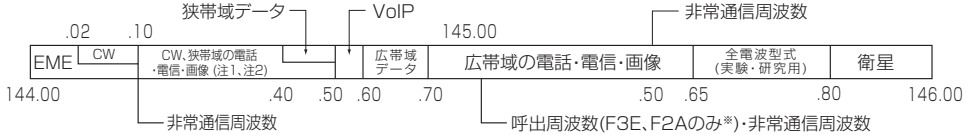
必要事項を記入した「アマチュア無線局の無線設備の保証願書」を「無線局免許申請書」に添えて、TSS株式会社に申請してください。
〒112-0011 東京都文京区千石4-22-6 TSS株式会社 保証事業部
TEL : 03-5976-6411

14 免許申請について

■ バンドの使用区別(バンドプラン)について

電波を発射するときは、下記の使用区別にしたがって運用してください。
なお、バンドプランは、改訂される場合があります。最新の情報は、JARLニュースやJARLホームページなどでご確認ください。

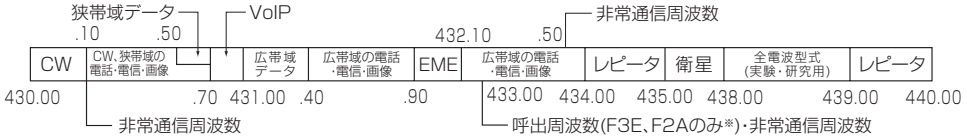
144MHz帯 | **周波数:MHz**



【注1】144.10MHzから144.20MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局と月面反射通信にも使用できる。
この場合の電波の占有周波数帯幅の許容値は3kHz以下のものに限る。
【注2】144.30MHzから144.50MHzまでの周波数は、国際宇宙ステーションとの交信に限って広帯域の電話、電信および画像通信にも使用することができる。

狭帯域:占有周波数帯幅3kHz以下(A3Eを除く)、広帯域:3kHzを超える

430MHz帯 | **周波数:MHz**



狭帯域:占有周波数帯幅3kHz以下(A3Eを除く)、広帯域:3kHzを超える

操作ガイド

主要な操作について、このページと裏につづくページにまとめています。

破線にそって切り取り、折り畳んでいただくことにより、簡単な操作ガイドになります。

財布やカードケースに収まるカードサイズですので、携帯にも便利です。

ちょっとした操作方法の確認や、屋外での運用などの際に、ご活用ください。

①破線にそって切り取ります。　②破線にそって折り畳みます。　③完成です。

切り取り線

■メモリーバンクモードのスキャン

①メモリーモードで、[BAND]を押し、[DIAL]を回してバンクを選択し、再度[BAND]を押して、メモリーバンクモードにする

②[SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。

③[DIAL]を回し、フルバンクスキャン(ALL)、バンクリンクスキャン(b-Link)、バンクスキャン(bAnk-A ～bAnk-Z)を選択する

④[SCAN](H/M/L)を押すとスキャンがスタートする

⑤[V/M/C]を押すとスキャンを解除する

■SETモードの操作

①[SET]を押して、設定項目を表示する

②[DIAL]を回して、設定項目を選択する

③[VOL]を回して、設定内容を変更する

④[V/M/C]を押して、SETモードを解除する

■キーロックのON/OFF

[LOCK](SET)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押す

■イニシャルSETモードの操作

①いったん電源を切る

②[SET]を押しながら、[⏻]を長く押して電源を入れる

③[DIAL]を回して、設定項目を選択する

④[VOL]を回して、設定内容を変更する

⑤[⏻]を押すと、イニシャルSETモードを解除する

■リセット操作のしかた

◆オールリセット

①いったん電源を切る

②[SET]、[BAND]、[H/M/L]を押しながら、[⏻]を長く押して電源を入れる

◆パーシャルリセット

①いったん電源を切る

②[H/M/L]を押しながら、[⏻]を長く押して電源を入れる

ICOM

IC-T70
IC-S70

操作ガイド

アイコム株式会社

■電源の“ON/OFF”
[⏻]を長く押して電源を“ON”にする
電源を“OFF”にするときも同じ操作をする

■運用モードの切り替え
[V/M/C]を押すごとに、VFOモード、メモリーモード、CALL-CHモードに切り替わる

■バンドの切り替え
[BAND]を押すごとに切り替わる

■周波数の設定
①VFOモードにする
②[DIAL]を回す
または(IC-T70のみ)
②テンキーより直接入力する
[例]435.620MHz
[4]、[3]、[5]、[·]、[6]、[2]、[0]

■音量の調整
[VOL]を回す

■スケルチレベルの調整
[MONI](BAND)を押しながら、[DIAL]を回して調整する

■M-CHの呼び出し
①メモリーモードにする
②[DIAL]、またはテンキー(IC-T70のみ)で呼び出す

■M-CHへの書き込み
[例]M-CH2へ435.600MHzを書き込む
①VFOモードにする
②[DIAL]、またはテンキー(IC-T70のみ)で435.600MHzを設定する
③[S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押し、M-CH選択状態(M-CH表示部が点滅)にする
④[DIAL]でM-CH 2を選択する
⑤[S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピピッと鳴るまで)押す
(書き込み後はVFOモードに戻る)

■メモリークリア(消去)のしかた
上記「■M-CHへの書き込み」にしたがって、消去したいM-CHを選択する(③、④を操作)
[SET]を数回押し、「CLEAR」を選択する
[S.MW](V/M/C)を長く(ピッ、ピピッと鳴るまで)押す

■VFOモードのスキャン
①VFOモードにする
②[SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
③[DIAL]を回し、フルスキャン(ALL)、バンドスキャン(BAND)、プログラムリンクスキャン(P-LInk0～9)、プログラムスキャン(PROG 0～24)を選択する
④[SCAN](H/M/L)を押すとスキャンがスタートする
⑤[V/M/C]を押すとスキャンを解除する

■メモリーモードのスキャン
①メモリーモードにする
②[SCAN](H/M/L)を長く(ピッ、ピーと鳴るまで)押します。
③[DIAL]を回し、フルメモリースキャン(ALL)、各種バンドメモリースキャンを選択する
④[SCAN](H/M/L)を押すとスキャンがスタートする
⑤[V/M/C]を押すとスキャンを解除する

さくいん

C

CTCSSトーン/DTCSコードスキャンのしかた…… 71

D

DTMFメモリー機能の使いかた …… 65

V

VFO周波数とM-CH …… 45
VFO周波数とメモリースキャン …… 47
VFOスキャンとM-CH …… 46
VFOスキャンとメモリースキャン …… 48
VFOモードのスキャン …… 39
VOX機能の使いかた …… 74

S

SETモードの項目一覧表 …… 49
SETモードの選択方法 …… 49

あ

アフターサービスについて…… 78
アンテナの取り付けかた…… 2
一般仕様…… 79
イニシャルSETモードの項目一覧表 …… 59
イニシャルSETモードの選択方法 …… 58
運用モード[VFO/メモリー/コールチャンネル]の切り替えかた…… 14
オートレピータ機能での交信…… 21

か

外部電源の接続…… 8
簡易充電のしかた…… 5
急速充電器(BC-191：別売品)…… 80
急速充電のしかた…… 7
クローニングについて…… 72
工事設計書の書きかた…… 81
工場出荷時の状態に戻す(リセット)には…… 76
故障かな？と思ったら…… 77
コールチャンネル(CALL-CH)の使いかた … 27

さ

周波数を設定するには…… 16
受信の基本操作…… 17
受信部…… 80
上面/側面/前面パネル…… 9
シンプルマイク機能の使いかた…… 75
スキップチャンネルの指定と解除のしかた… 43
スキャンについて…… 37
スケルチレベルを調整する…… 15

送信時のオフバンド表示について…… 24
送信のしかた…… 18
送信部…… 79

た

チューニングステップ…… 17
ディスプレイ…… 11
デュプレックス運用について…… 23
電源の“ON/OFF”と音量調整のしかた …… 13
電池の入れかた…… 3
トーンスケルチ/DTCSコードスケルチ/ポケットビープ機能の使いかた…… 69

は

バッテリーパック/バッテリーケースの取り付けかた…… 2
バッテリーパックについて…… 3
ハンドストラップの取り付けかた…… 1
バンドの使用区別(バンドプラン)について … 83
プライオリティースキャンについて…… 44
別売品一覧…… 73
別売品についてのご注意…… 73
ベルトクリップの取り付けかた…… 1

ま

無線局事項書の書きかた…… 81
メモリー/バンク/スキャンネームの使いかた…… 33
メモリー(M-CH/CALL-CH/PROGRAM-CH)への書き込みかた…… 28
メモリークリア(消去)のしかた …… 36
メモリーチャンネル(M-CH)の内容 …… 26
メモリーチャンネル(M-CH)の内容をバンクで編集する…… 30
メモリーチャンネル(M-CH)の呼び出しかた 26
メモリーモードについて…… 25
メモリーモードのスキャン…… 41
モニターのしかた…… 15

ら

ロック機能の使いかた…… 20

高品質がテーマです。

A-6807D-1J-②
Printed in Japan
© 2009–2013 Icom Inc.

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32